

# 由布市 まち・ひと・しごと創生



## 由布市人口ビジョン ～第2期版～



総合計画の目指す将来像  
「地域自治を大切にした  
住み良さ日本一のまち・由布市」

令和2年 3月 31日 大分県由布市

## 第2期 由布市人口ビジョン 目次

1	由布市人口ビジョンの位置づけ	1
2	由布市人口ビジョンの対象期間	1
3	国の長期ビジョン	1
4	大分県の人口の推移	3
5	由布市の人口の現状分析	4
6	由布市の人口動態	13
7	由布市の産業別就業者	22
8	由布市の税収の状況分析	25
9	国立社会保障・人口問題研究所の人口推移の概要	26
10	大分県の人口シミュレーション	28
11	将来人口の推移と分析	29
12	人口の現状分析等のまとめ	31
13	人口減少問題に取り組む基本的視点	33
14	由布市の人口の将来展望	35

## 1 第2期由布市人口ビジョンの位置づけ

第2期由布市人口ビジョンは、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び大分県の「第2期人口ビジョン」の趣旨を尊重し、本市における人口の現状分析を行い、人口に関する市民との認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。

よって、第2期由布市人口ビジョンは、由布市総合戦略及び第二次由布市総合計画の成果を測る重要な指標です。

また、総合計画の人口目標を、2025(令和7)年の総人口32,600人を導出した考え方を踏襲するとともに、「由布市総合戦略」まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上で、重要な基礎となることを認識し且つ第1期人口ビジョンの状況を踏まえ策定しました。

なお今後、国から追加のビックデータの提供があるため、現在実施中のものと併せ分析を行い、考察の厚みを持たせていきます。

## 2 第2期由布市人口ビジョンの対象期間

由布市人口ビジョンの対象期間は、国が示す長期ビジョン及び大分県が示す人口ビジョンの期間、2060(令和42)年とし、第二次由布市総合計画との整合を図るとともに、国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)の人口推計等を基礎数値として用いていきます。

## 3 国の長期ビジョン

### (1) 長期ビジョンの趣旨

- ・50年後に1億人程度の人口を維持することを目指し、日本の人口動向を分析し、将来展望を示す。

### (2) 人口の現状と将来展望

#### ア 日本の人口減少をどう考えるか。

- ・日本は、2008年をピークとして人口減少時代へ突入し、今後一貫して人口が減少し続けると推計されている。
- ・地域によって状況が異なり、地方では本格的な人口減少に直面している市町村が多い。

#### イ 人口減少が経済社会に与える影響をどう考えるか。

- ・人口減少により、経済規模の縮小や国民生活の水準が低下する恐れがある。

#### ウ 「東京一極集中」の問題をどう考えるか。

- ・地方から東京圏への人口流入は続いており、特に若い世代が東京圏に流入する。

#### エ 人口減少に歯止めをかけることの意味をどう考えるか。

- ・出生率の改善が早期であるほど、その効果は大きい。

(3) 目指すべき将来方向と今後の基本戦略

ア 目指すべき「将来方向」をどう考えるか。

- ・将来にわたって活力ある日本社会を維持することが基本方向。
- ・国民の、地方移住や結婚・出産・子育てといった希望を実現する。

イ 取組むべき「政策目標」をどう考えるか。

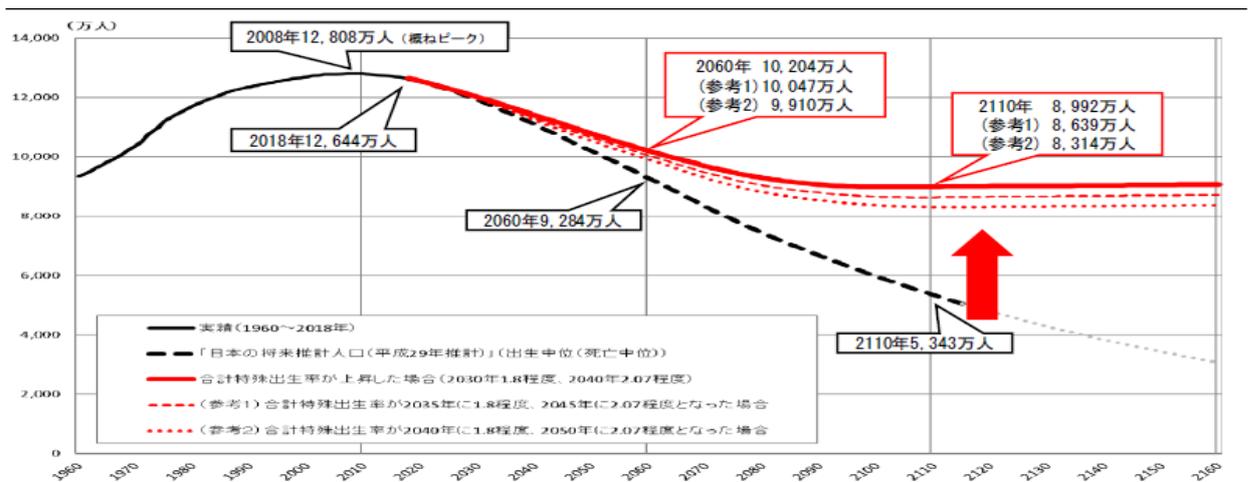
- ・人口減少克服・地方創生に正面から取り組むとともに、地域の特性に即した対応や制度全般の見直しを進めていく必要がある。
- ・以下の中長期的な政策目標を提示する。
  - ①若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現
  - ②東京圏への人口の過度の集中の是正
  - ③地域の特性に即した地域課題の解決

ウ 今後、この問題にどのような姿勢で臨むべきか。

- ・国民的論議を喚起し、人口減少は国家の根本に関わる問題であるとの基本認識を共有し、中長期的な目標を掲げ継続的に取り組む。
- ・地域住民の参加も得る形で、地方の発意と自主的な取組を基本とし、国がそれを様々な面で支援していく。

図1. 我が国の人口の推移と長期的な見通し

- 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」(出生中位(死亡中位))によると、2060年の総人口は約**9,300**万人まで減少すると見通されている。
- 仮に、合計特殊出生率が**2030**年に1.8程度、**2040**年に2.07程度まで上昇すると、2060年の人口は約**1億200**万人となり、長期的には9,000万人程度で概ね安定的に推移するものと推計される。
- なお、仮に、合計特殊出生率が1.8や2.07となる年次が5年ずつ遅くなると、将来の定常人口が概ね**300**万人程度少なくなると推計される。



(注1)実績は、総務省統計局「国勢調査」等による(各年10月1日現在の人口)。国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」は出生中位(死亡中位)の仮定による。2115~2160年の点線は2110年までの仮定等をもとに、まち・ひと・しごと創生本部事務局において機械的に延長したものである。  
 (注2)「合計特殊出生率が上昇した場合」は、経済財政諮問会議専門調査会「選択する未来」委員会における人口の将来推計を参考にしながら、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度(2020年には1.6程度)となった場合について、まち・ひと・しごと創生本部事務局において推計を行ったものである。  
 (注3)国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2019」によると、人口置換水準は、2001年から2016年は2.07で推移し、2017年は2.06となっている。  
 (注4)総人口の推計においては、2019年4月施行の出入国管理及び難民認定法等の改正(新たな在留資格の創設等)に伴う外国人の増加は考慮していない。

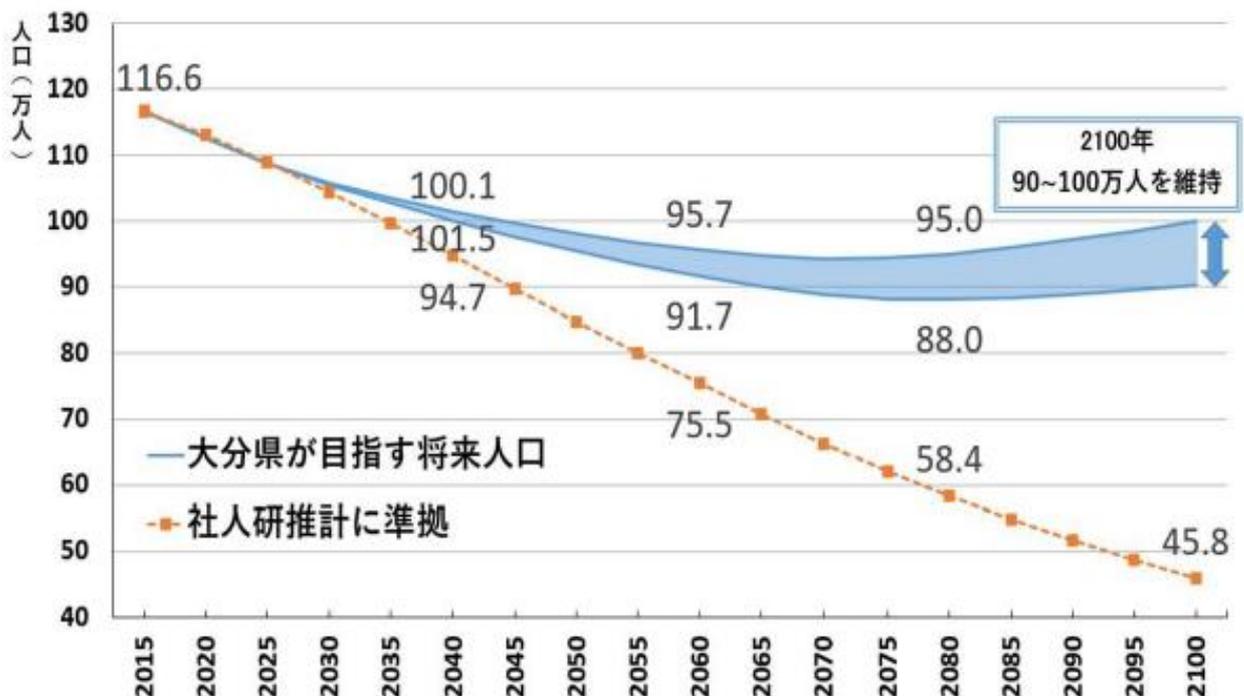
## 4 大分県の人口の推移

大分県の人口は、1955(昭和30)年に約128万人のピークに達した後、高度経済成長期には、大都市圏への労働力流出によって減少しました。1970(昭和45)年からは、大分地区の新産業都市指定による企業誘致の進展等を背景として、1985(昭和60)年までは上昇に転じたものの、その後は緩やかな減少が続いており、2014(平成26)年現在で約117万人となっています。

社人研推計では、今後人口減少はさらに加速し、2040年には約96万人にまで減少するとされています。さらに、この社人研推計をもとに本県独自で2060年までの人口を推計すると、76万人程度になると見込まれ、このまま何もしなければ2100年には45.8万人まで減少すると見込まれています。

このため、大分県第2期人口ビジョンでは2100年までには90万人から100万人程度の人口を維持する目標を掲げています。

総人口の将来推計

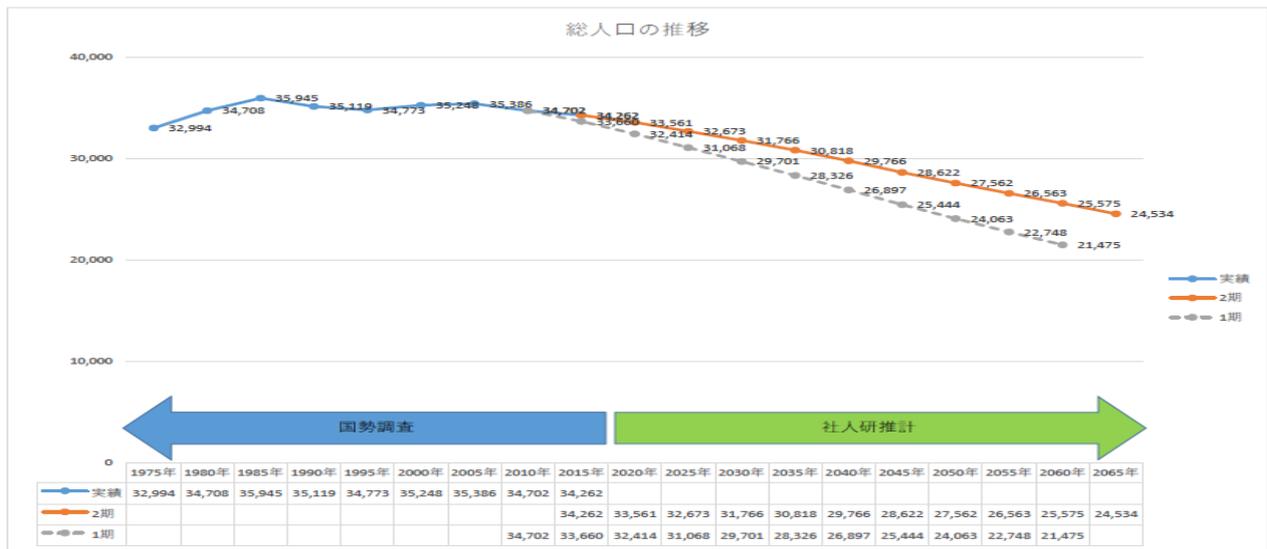


## 5 由布市の人口の現状分析

### ① 総人口の推移

由布市の人口の推移を考察すると、1985(昭和60)年の国勢調査人口35,945人をピークに減少傾向にあり、2015(平成27)年の国勢調査人口は、34,262人まで減少をしています。

また、社人研推計によれば、2065年には、24,534人まで減少することが推測されています。



※2015年までは国勢調査、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口に基づき作成

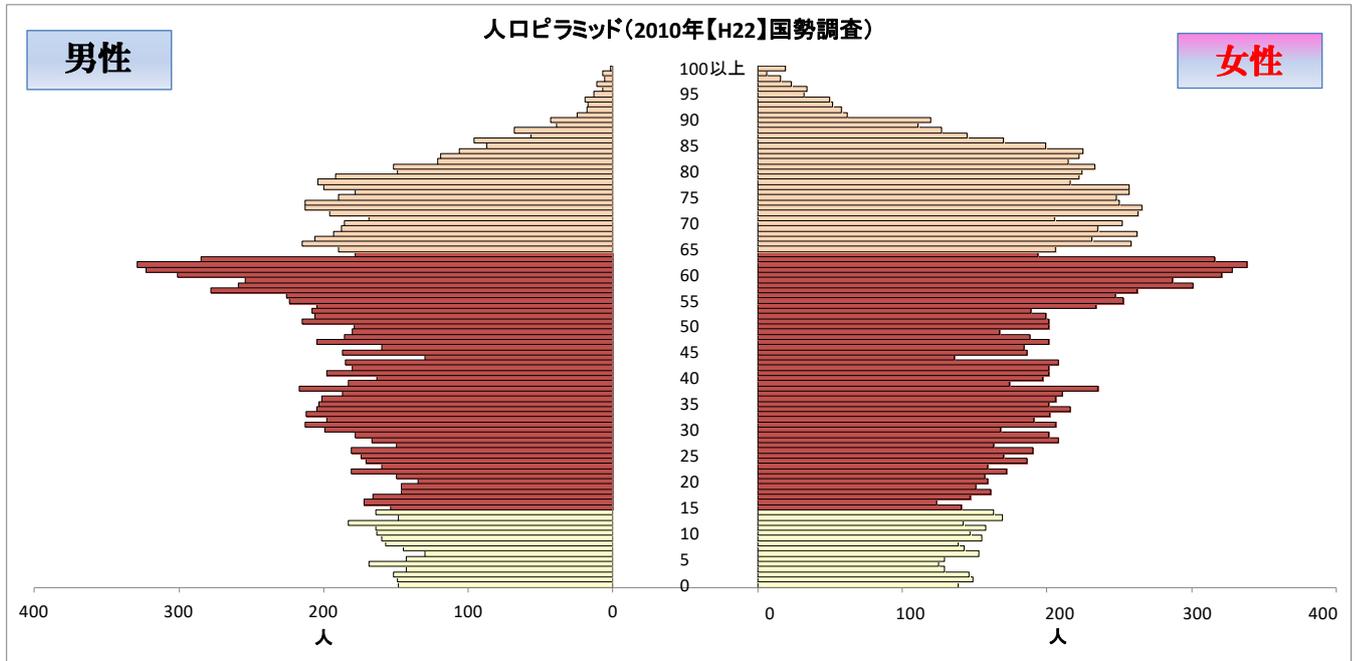
### ② 年齢3区分別人口構成の推移

年齢3区分別人口構成の推移を見ると、年少人口の構成比割合は、1980(昭和55)年は21%でしたが、2015(平成27)年には、12.6%まで落ち込んでいます。また、同様に生産年齢人口構成比も、66.3%から58%まで落ち込んでいます。その反面、老年人口の構成比は、12.7%から32.3%に上昇しており、さらなる高齢化の波が押し寄せています。



### ③ 人口ピラミッド

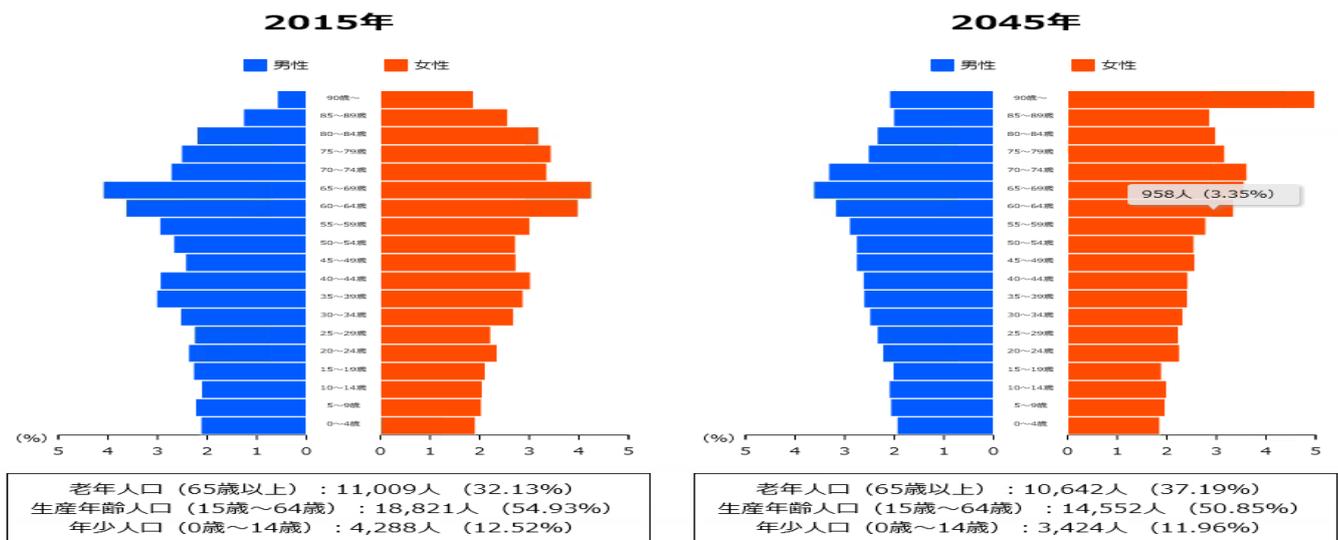
2010(平成22)年国勢調査人口の人口ピラミッドから考察すると、第1次ベビーブーム世代の総人口に占める割合が男女とも高いことが覗えます。現時点では、この年代層が65歳以上になっていることで、高齢化率に拍車をかけています。



### ③ 人口ピラミッド 将来比較

社人研推計の2045年の人口ピラミッドを見たとき、第2次ベビーブーム世代人口が90歳以上となり、年少人口の減少も著しく、また、同時に生産年齢人口も減少をしています。年齢構成も逆ピラミッドになり人口構造が危険な状況となってくることが推測されます。

大分県由布市

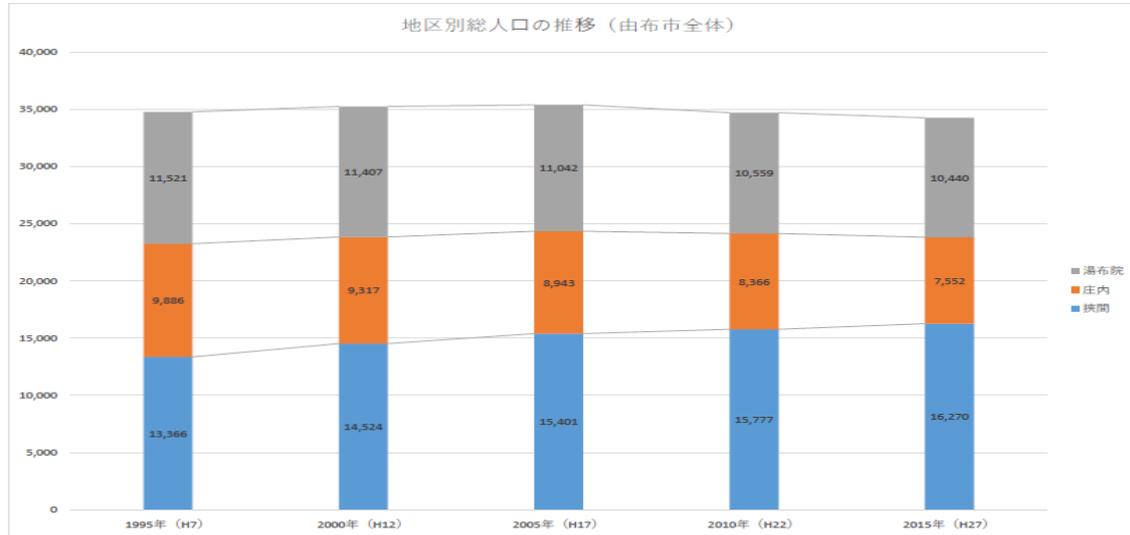


【出典】  
 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」  
 【注記】  
 2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ(平成30年3月公表)に基づく推計値。

#### ④ 地区別総人口の推移

1995(平成7)年国勢調査から2015(平成27)年国勢調査人口の比較を見たとき、3地域の人口の推移は、挾間地域は増加していますが、湯布院地域、庄内地域は減少しています。

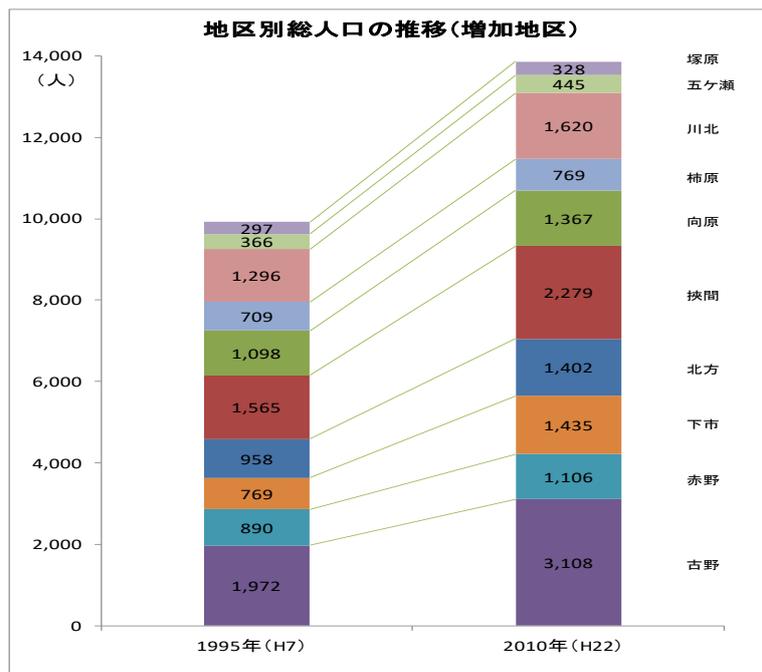
特に、庄内地域においては、著しい減少が見受けられます。



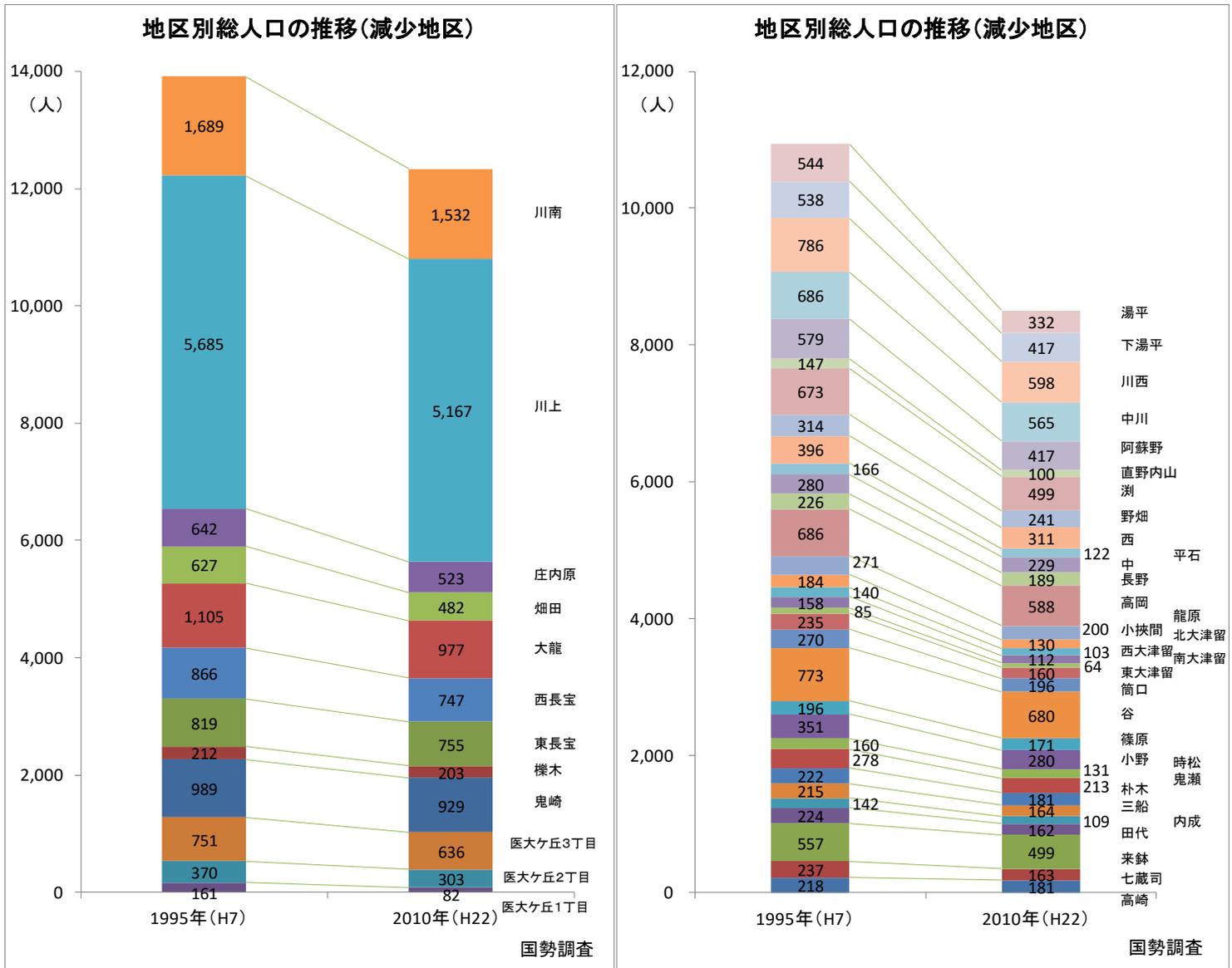
#### ⑥ 地区別人口(増加地区の比較)

1995(平成7)年国勢調査から、2010(平成22)年国勢調査人口の地区別の比較を見たとき、3地域の人口の推移は、挾間地域は増加していますが、湯布院地域、庄内地域は減少しています。大字ごとには、湯布院地域の川北、挾間地域の向原、挾間、北方、下市、赤野、古野は増加していますが、その他の地域は微減している地域と、周辺部においては減少傾向が加速している地域となっています。

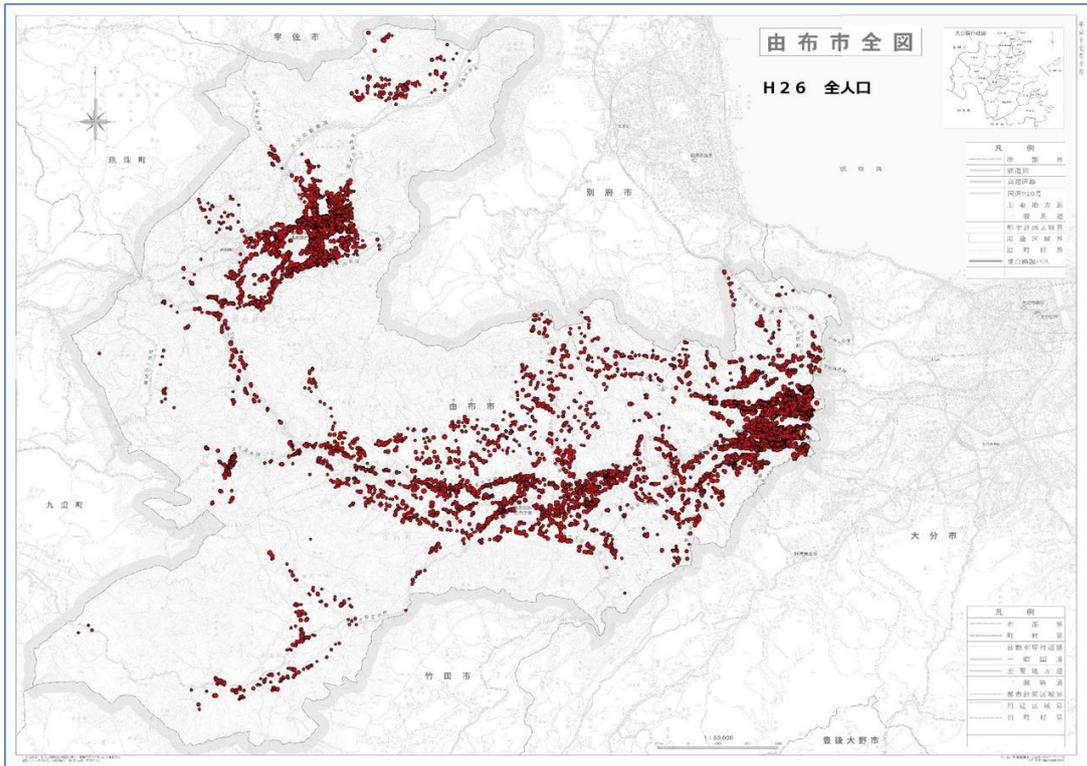
また、挾間地域の人口が増加している要素の一因として、市外からの転入者、又は、湯布院地域・庄内地域・挾間周辺部等から、アパートへの入居、または、一戸建て住宅建設による、市内から移動している状況も推測されます。



⑦ 地区別人口(減少地区の比較)

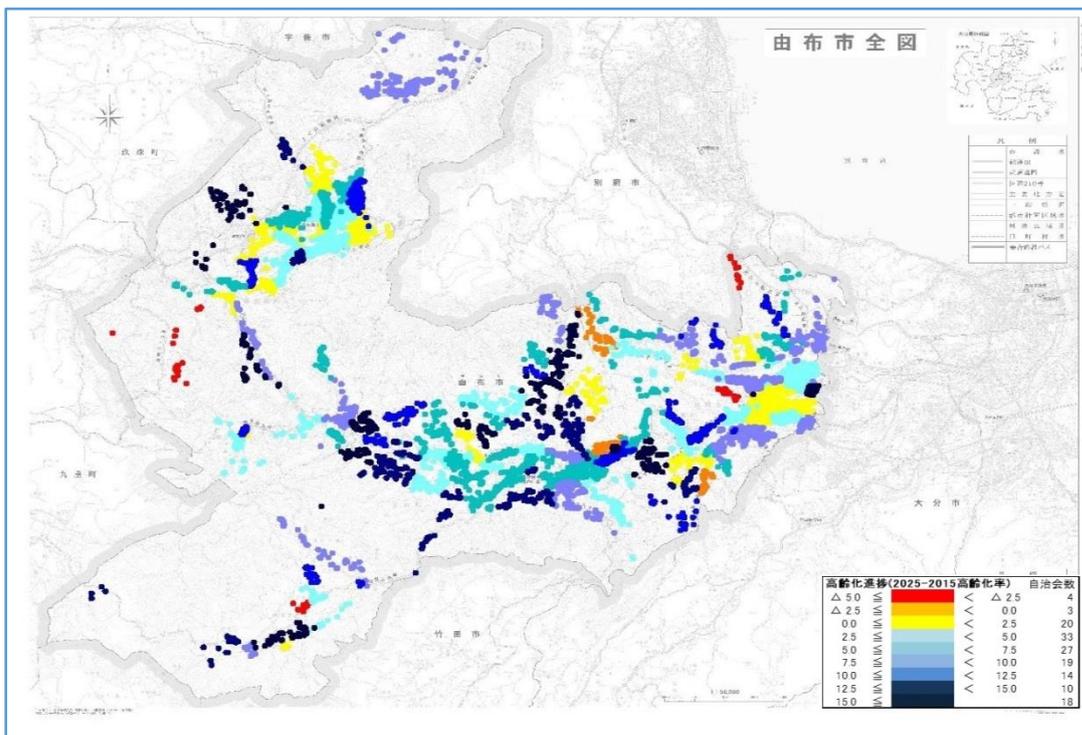


⑧ 由布市の人口分布図



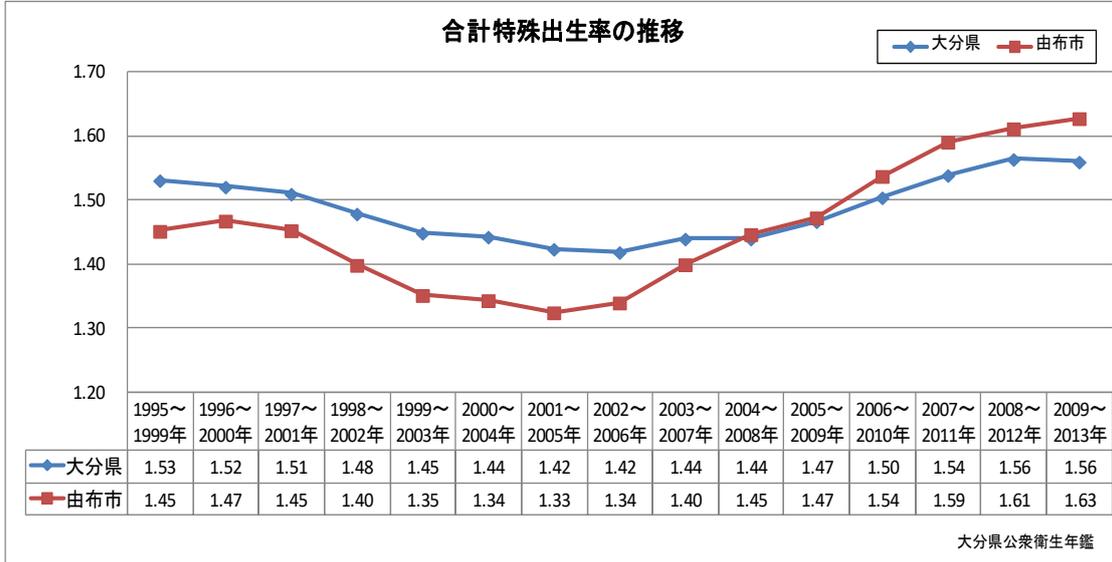
⑨ 由布市の高齢化率分布図

2015(平成27)年と2025(平成38)年の自治区ごとの高齢化率の増減を表した分布図です。橙、赤は高齢化率が下がる地区、黄から青が濃くなるにつれて高齢化率が高まる地区を示しています。挾間、庄内、湯布院の中心部に向けて、高齢化が進展していくことが予測されます。



⑩ 合計特殊出生率の推移

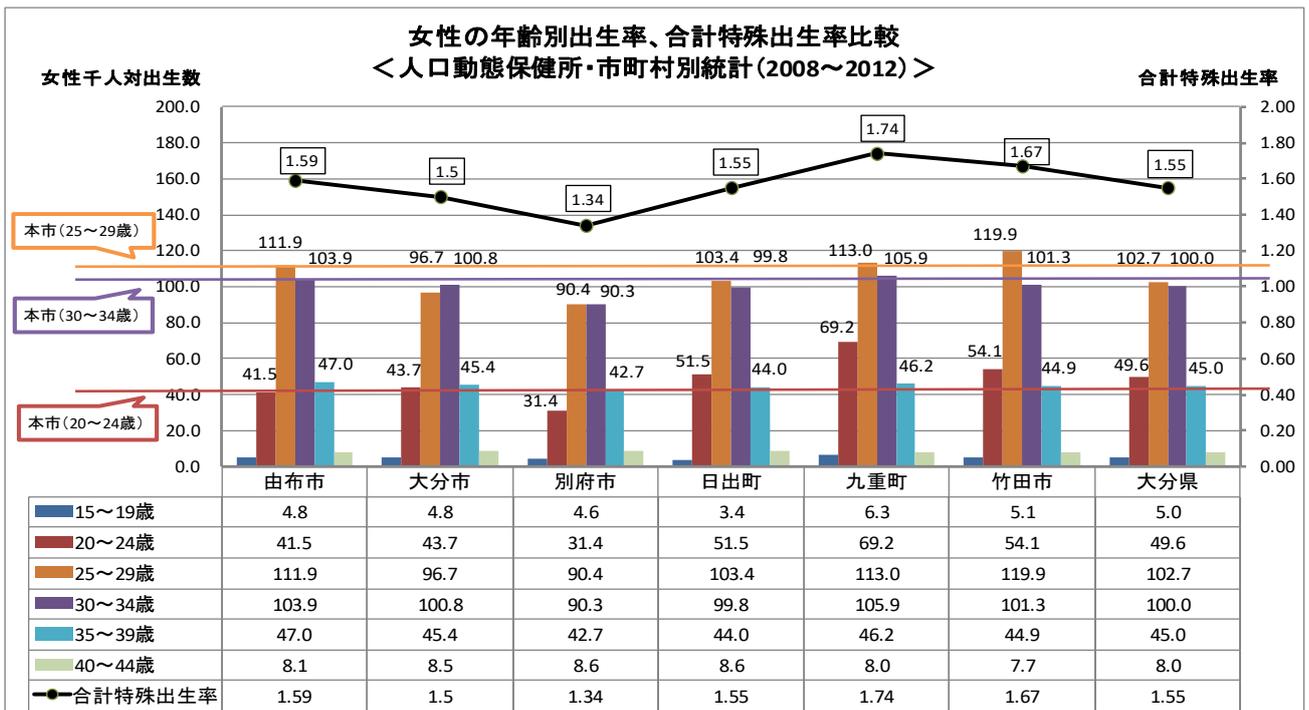
合計特殊出生率の推移は、合併以前は大分県の平均値を下回っていましたが、2005(平成17)年の合併後は、大分県の平均値を上回る合計特殊出生率となっています。合併後の子育て支援対策強化の傾向が顕著に表れています。



⑪ 合計特殊出生率の他市比較

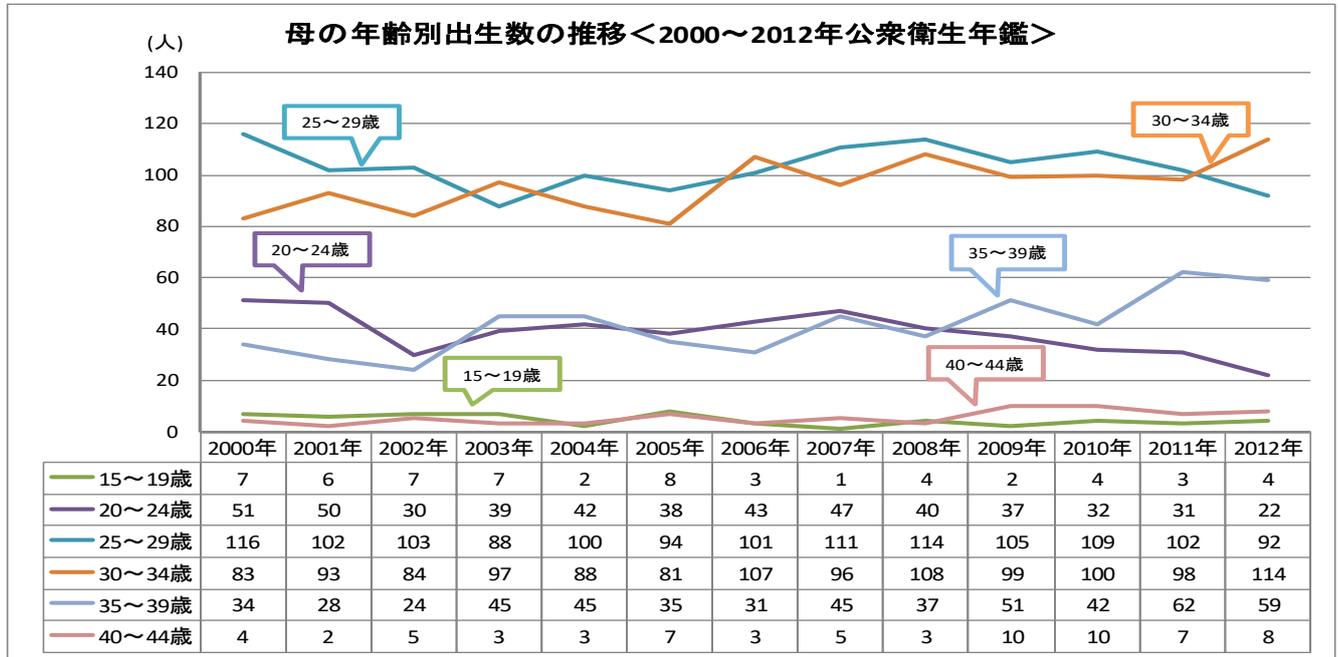
女性の年齢別出生率の他市比較を見ると、15歳から44歳までの女性が一生で平均に出産する数を推計する合計特殊出生率は、九重町が1.74と近隣で最も高い数値となっています。本市の合計特殊出生率は1.59であり、近隣の大分市、別府市よりは高い数値となっています。

しかし、20歳から24歳の出生数を見ると、他市より少し低い状況にあります。このことは、若者の出生率が高いほど、合計特殊出生率は高い傾向にあり、第2子、第3子と出産する率が高くなるためと考えられるため、不安な要素の一因であります。



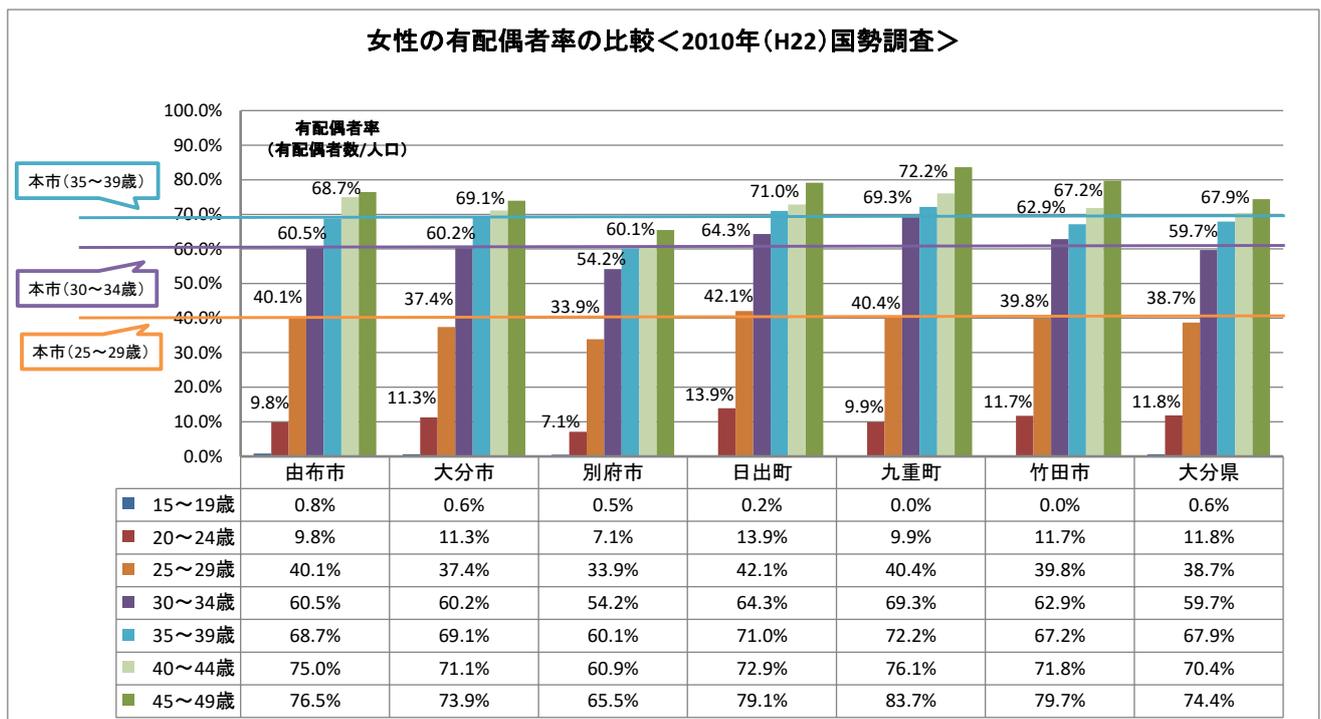
⑫ 母の年齢別出生数の推移

母の年齢別出生数の推移を見ると、25歳から34歳までの出生数の推移は、横ばい傾向で推移をしています。しかし、20歳から24歳の出生数は減少傾向にあり、同世代の人口減少とも連動をしています。逆に、35歳から39歳の出生数は上昇傾向にあります。このことから、近年の晩婚化の傾向がうかがえます。



⑬ 女性の有配偶者率の他市比較

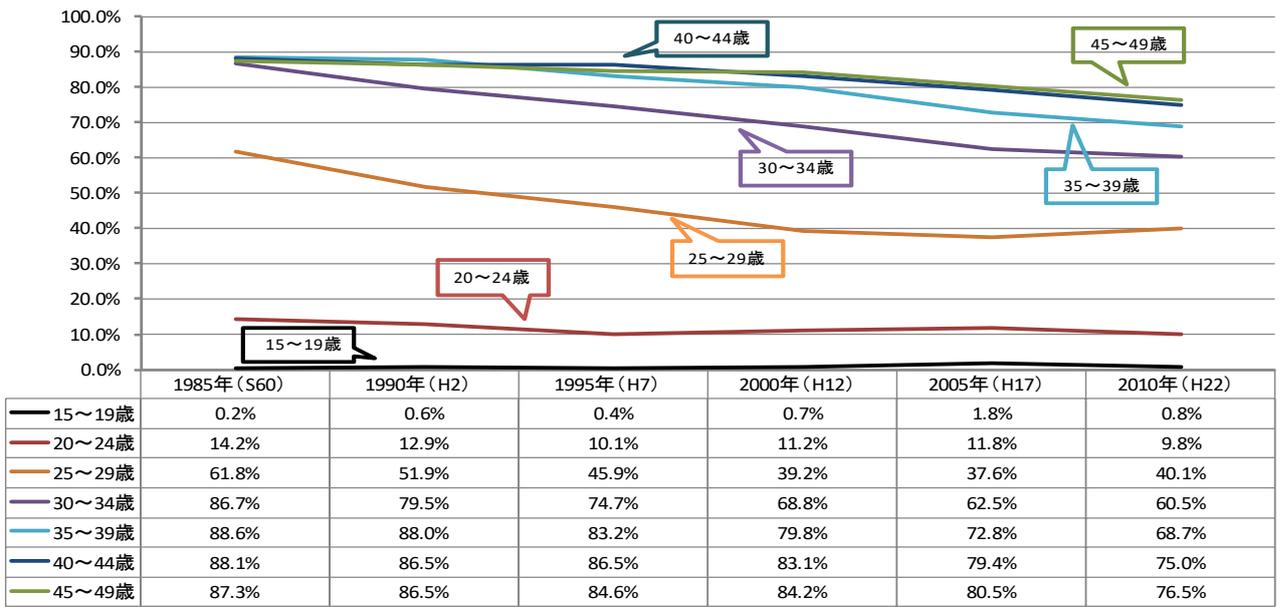
女性の有配偶者率を見ると、女性年齢別の出生数とほぼ同様の傾向が見受けられます。県内では、九重町の有配偶者率の数値が高い傾向にあります。本市の有配偶者率は、大分県平均より高く、近隣の大分市、別府市よりも高い率となっていますが、20歳から24歳の有配偶者率は少し低くなっています。



⑭ 女性の有配偶者率の推移

女性配偶者率の推移を見ると、全体的には低下傾向にあります。特に、25歳から29歳までの配偶者率は、1985(昭和60)年には60%強でありましたが、2010(平成22)年には、40%まで落ち込んでいる状況です。同様に30歳から34歳までの配偶者率は、90%弱でありましたが、20ポイント落ち込んでいて、晩婚化の傾向が顕著になっています。結婚する年齢が早ければ出生率も上がり、第2子、第3子と出産する率が高くなると考えられるため、若者の結婚年齢に対する課題が見受けられます。

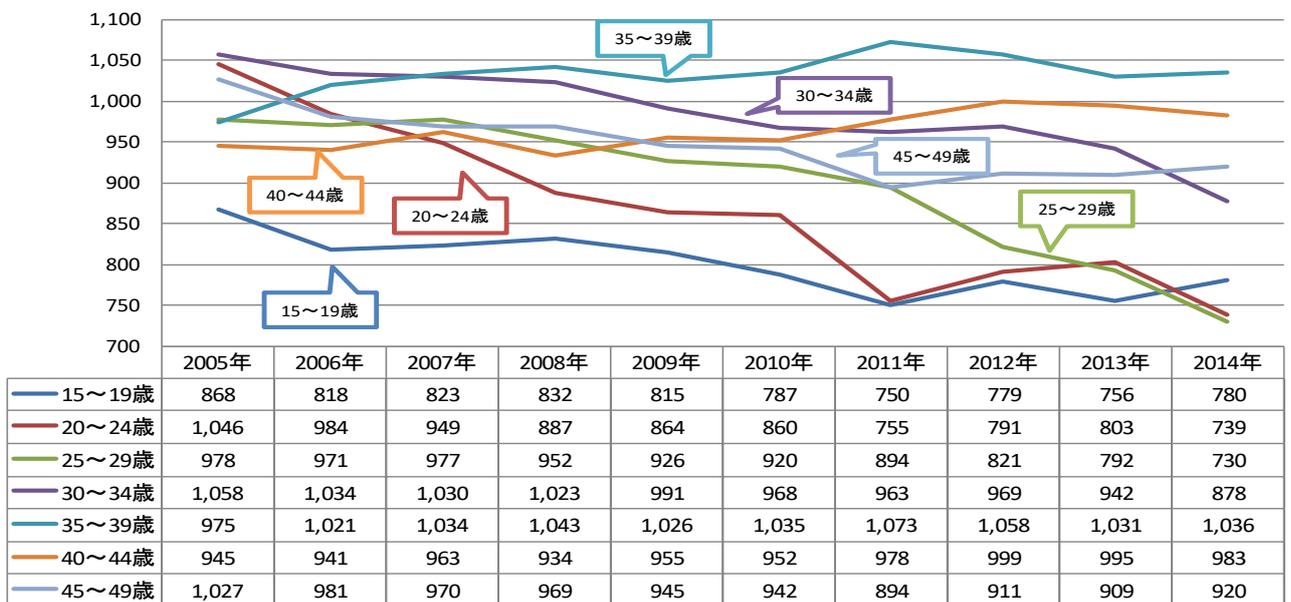
年齢階級別女性配偶者率の推移<1985年(S60)～2010年(H22)国勢調査>



⑮ 15歳から49歳女性人口の推移

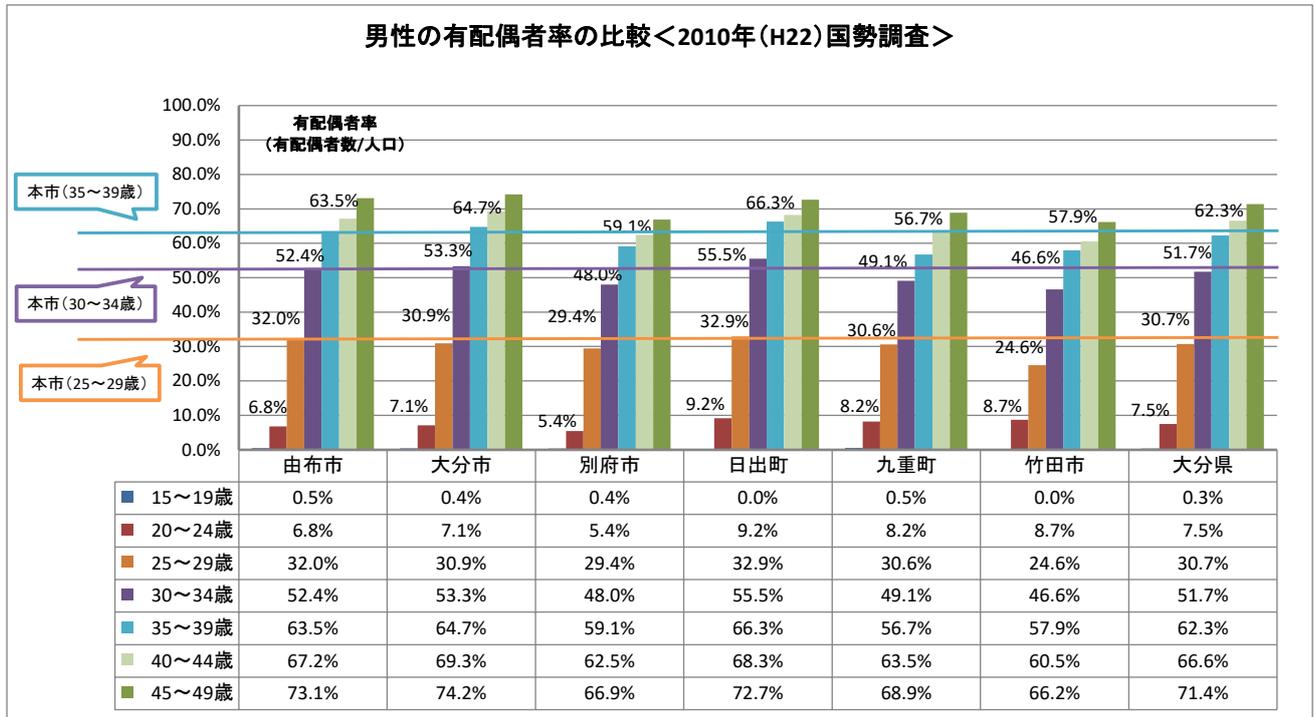
15歳から49歳女性人口の推移を見ると、35歳以上の女性人口は、微増から横ばいの状況が見受けられます。しかし、20歳から29歳の女性人口は著しい減少傾向にあります。このことは、出産適齢期の女性人口が減少していることで、出生数に大きな影響を与えることが考えられます。

15歳～49歳女性人口の推移<2005～2014大分県の人口推計年報>



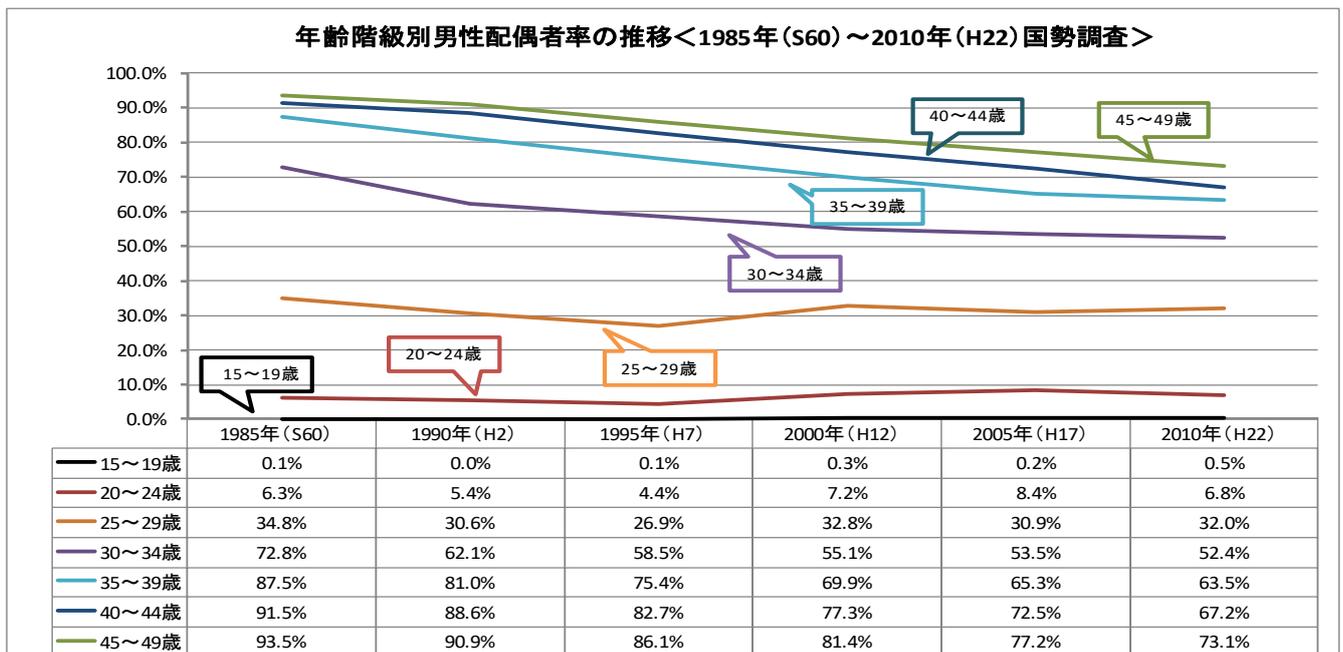
⑩ 男性の有配偶者率の他市比較

本市の男性有配偶者率を見ると大分県平均より若干高く、隣接する大分市とほぼ同じ傾向となっています。



⑪ 男性の有配偶者率の推移

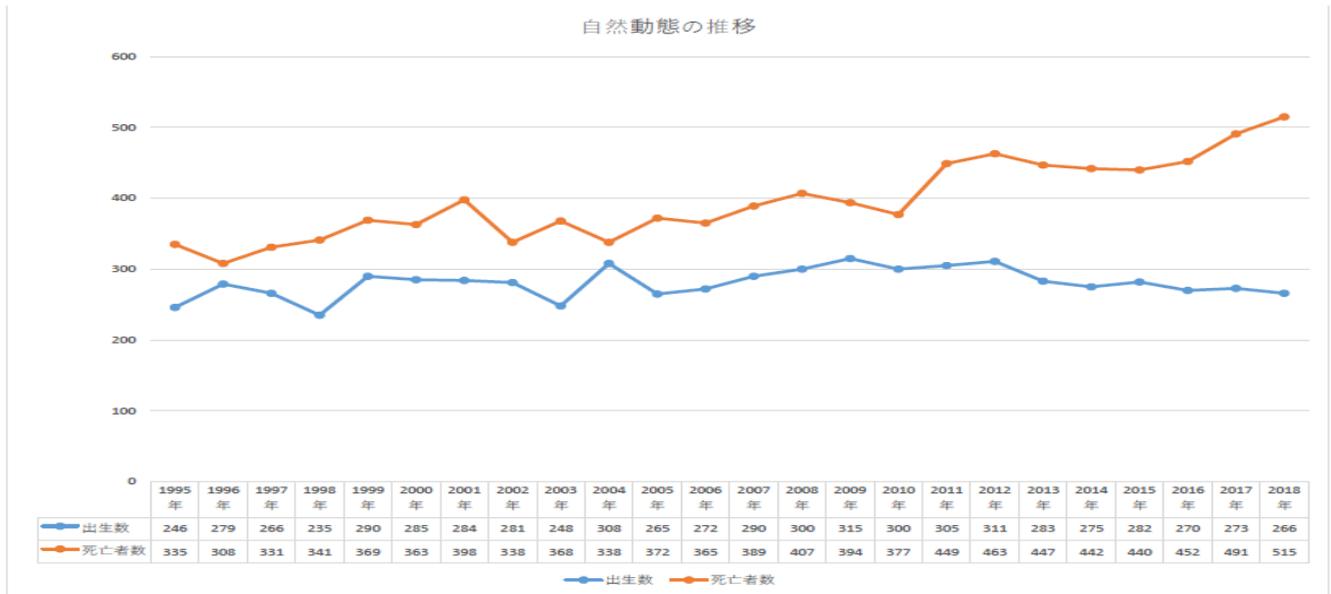
男性配偶者率の推移を見ると、全体的には、低下傾向にあります。特に、35歳から39歳までの配偶者率は、1985(昭和60)年には87.5%でありましたが、2010(平成22)年には、63.5%まで落ち込んでいる状況です。同様に30歳から34歳までの配偶者率についても、20ポイント落ち込んでいて、晩婚化・未婚化の傾向が顕著になっています。しかし、女性の配偶者率と比較すると、25歳から29歳までの男性の配偶者率は横ばい傾向にあり、女性の配偶者率とは異なる傾向が見受けられます。



## 6 由布市の人口動態

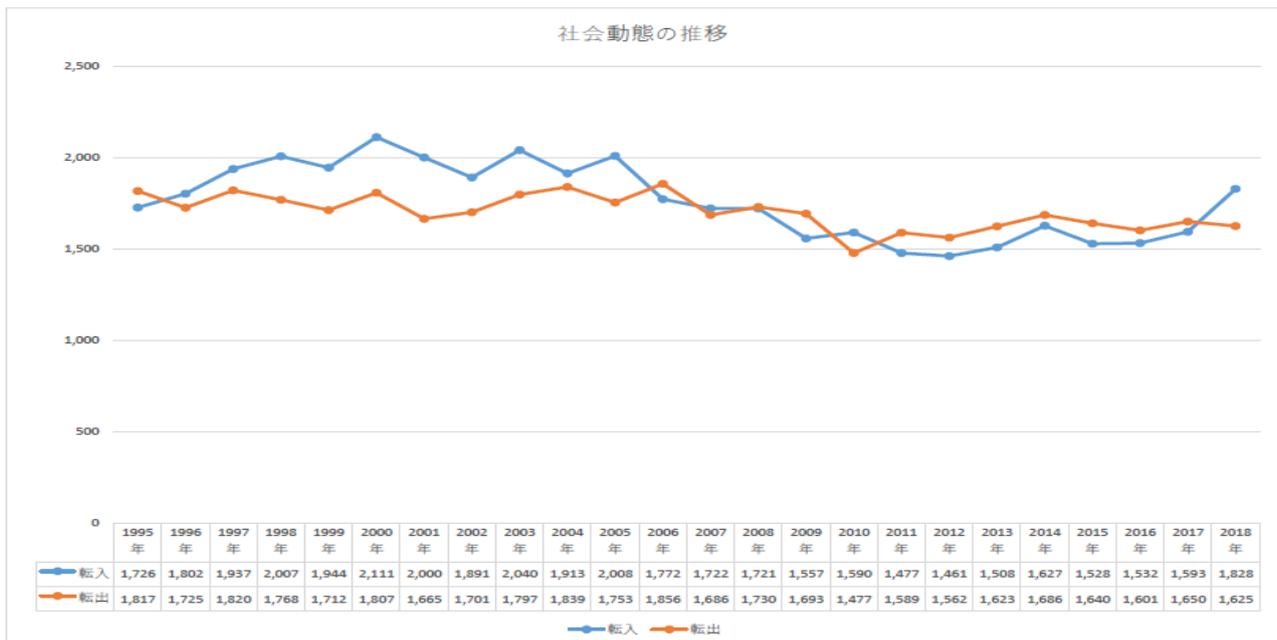
### ①自然動態の推移

本市では、自然減少の状態が現在まで続いています。本市の平均寿命は、男性80.8歳、女性86.7歳で、今後も続く高齢化の進行とともに、出生数も2009(平成21)年の315人を最高に、横ばい傾向から近年は減少傾向にあり、今後人口の自然減は加速すると見込まれています。



### ② 社会動態の推移

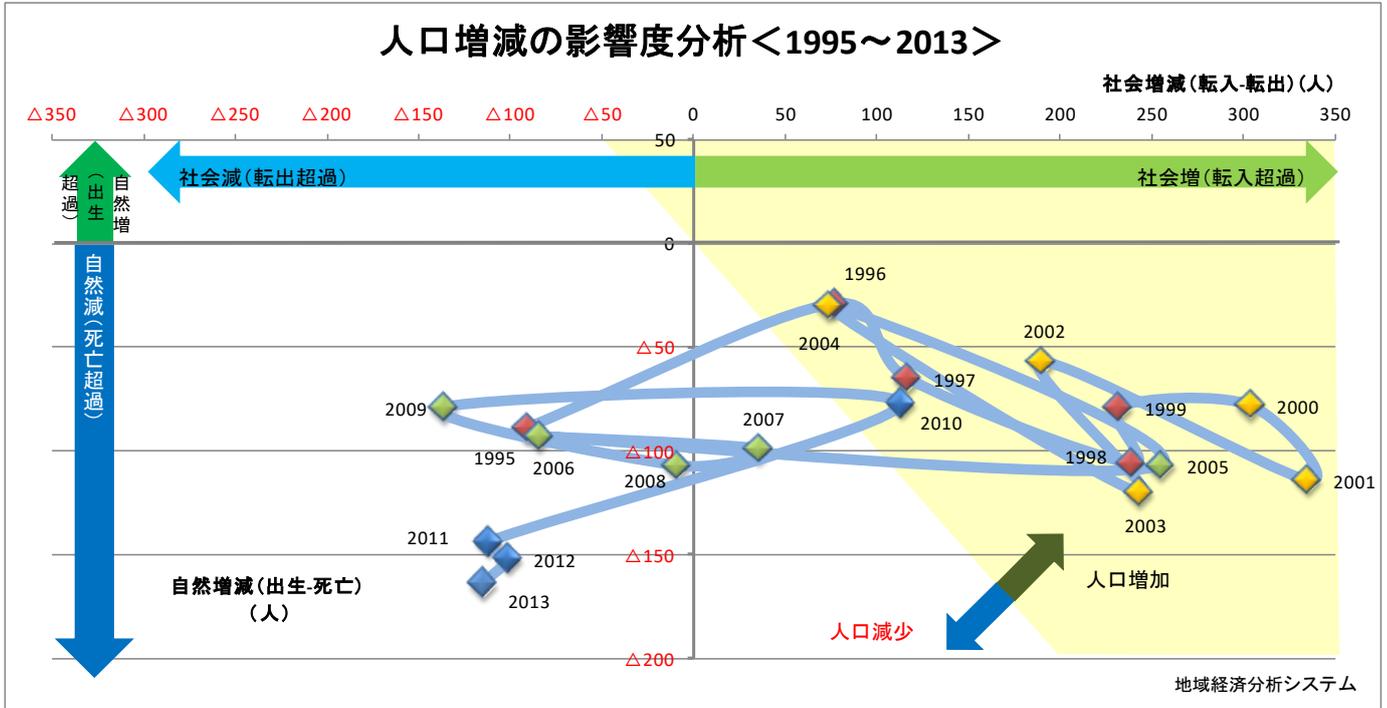
本市の社会動態の推移を見ると1996(平成8)年から2005(平成17)年までは、転入超過の状況でした。しかし、2006(平成18)年から2010(平成22)年までは、社会増減は拮抗した状況に変わり、近年、2011(平成23)年からは転出超過の傾向が顕著な動きとして見受けられますが、総合戦略の取組み等による転入者増加の効果についても期待できます。



### ③ 社会動態の影響分析

社会増減の影響からは、1996(平成8)年から2005(平成17)年、2010(平成22)年には社会増の影響で人口増の状況がみられました。しかし、2011(平成23)年からは、社会減少傾向、いわゆる転出超過が続いています。

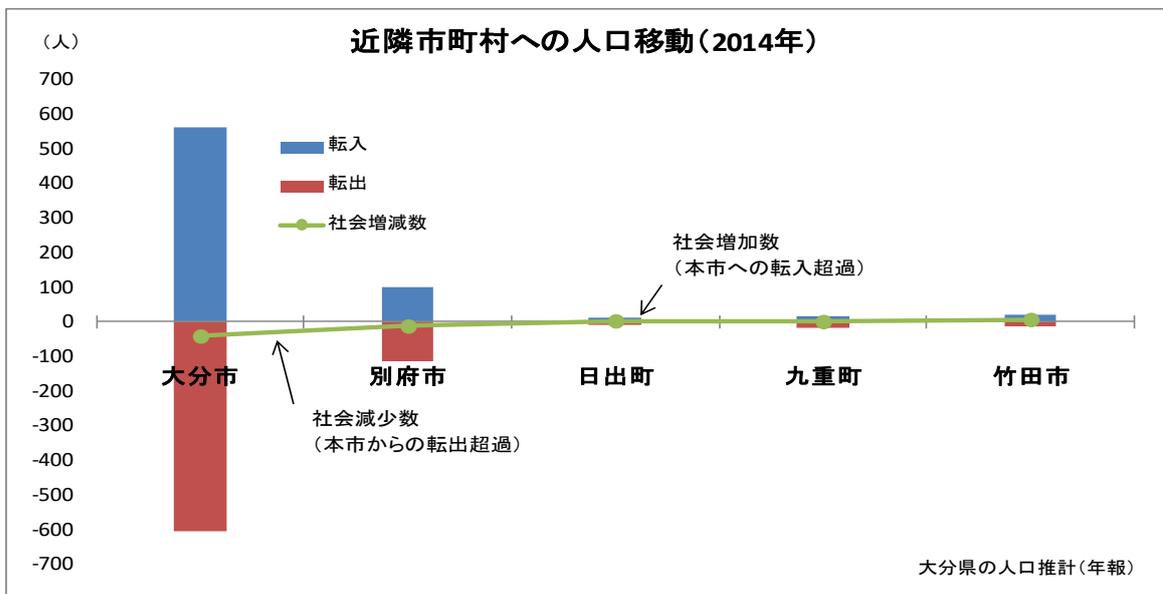
自然増減については、自然減の傾向は続いてきていますが、近年は自然減の傾向が加速することが懸念されます。



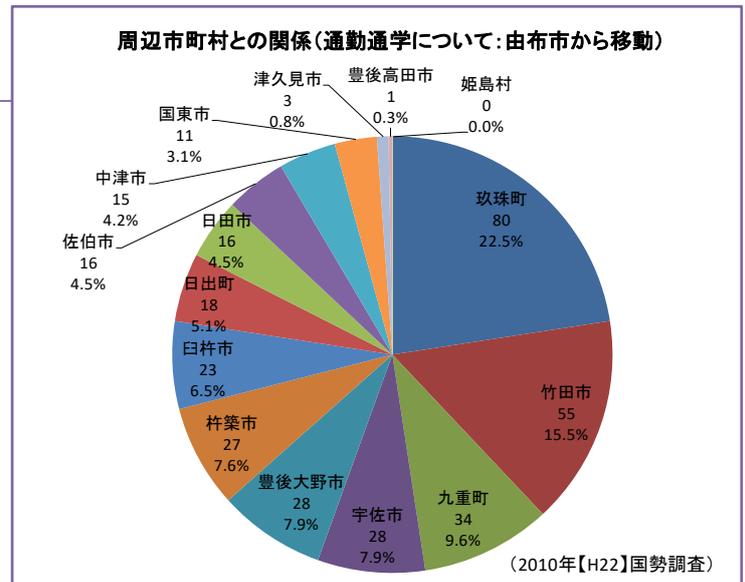
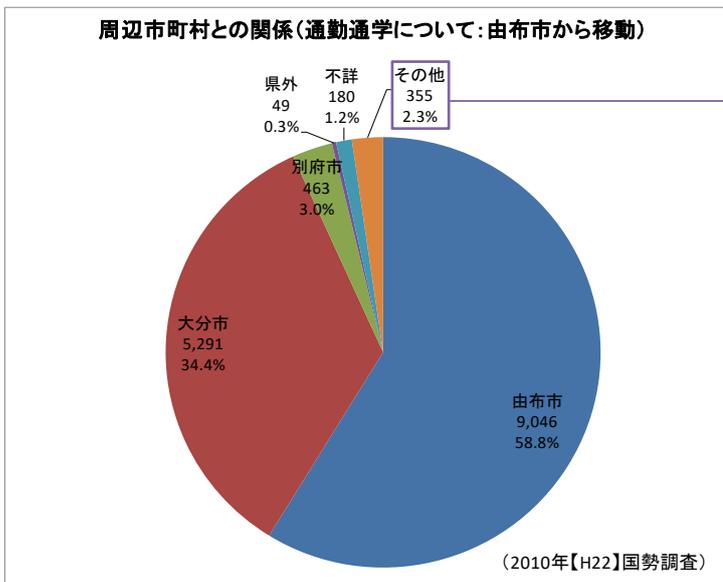
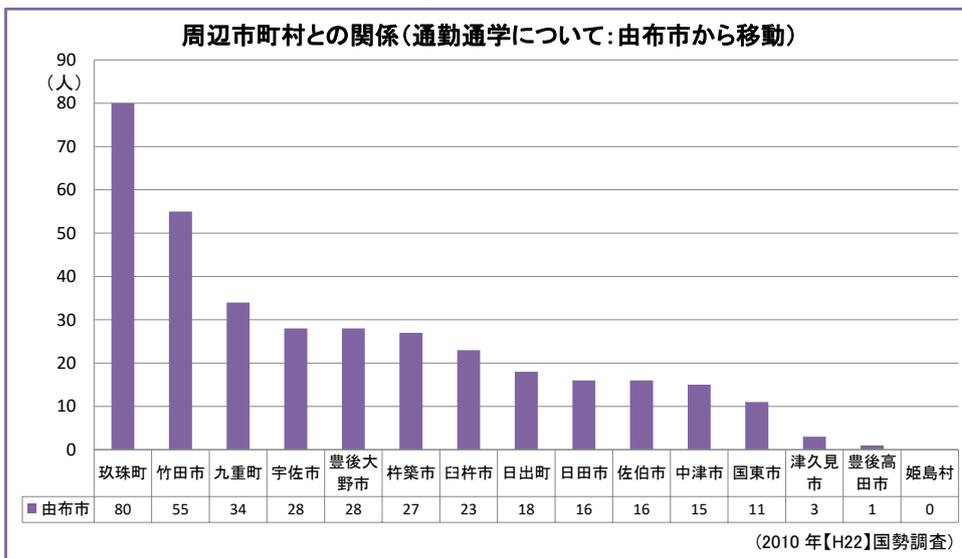
### ④ 近隣市町村への人口移動

2014(平成26)年の由布市から近隣市町村への人口移動を見ると、大分市への転入・転出者が、転入者580人、転出者627人と一番多く、続いて別府市となっています。

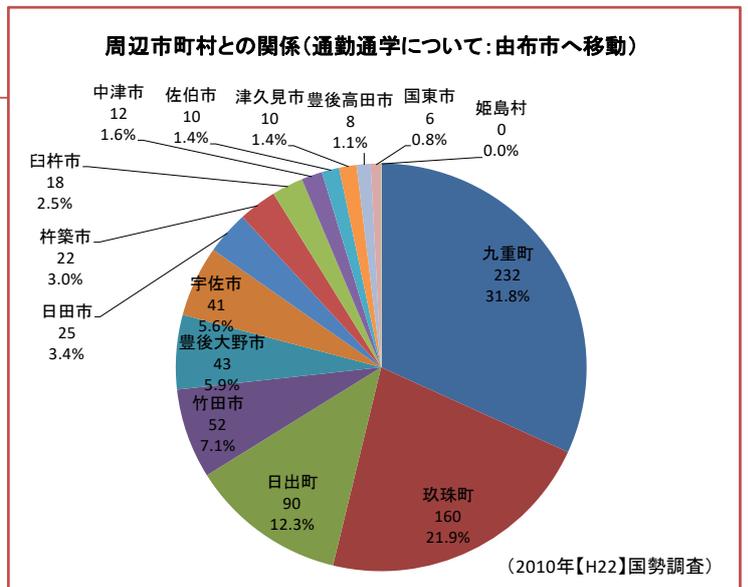
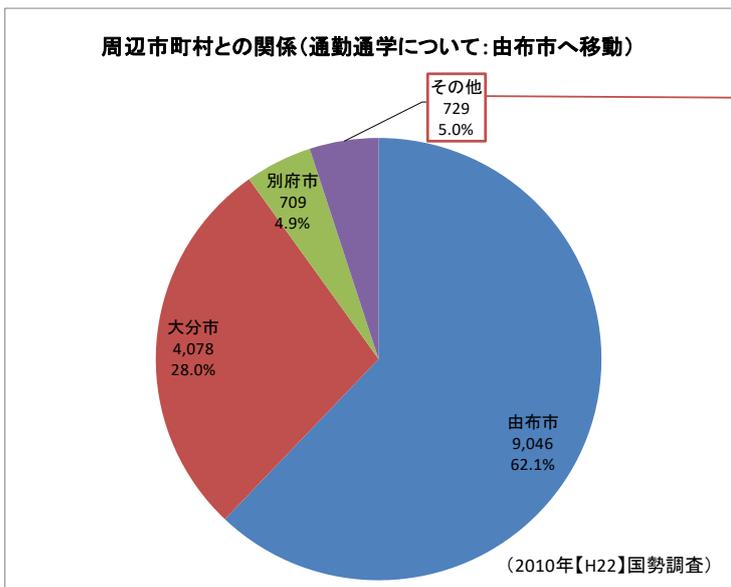
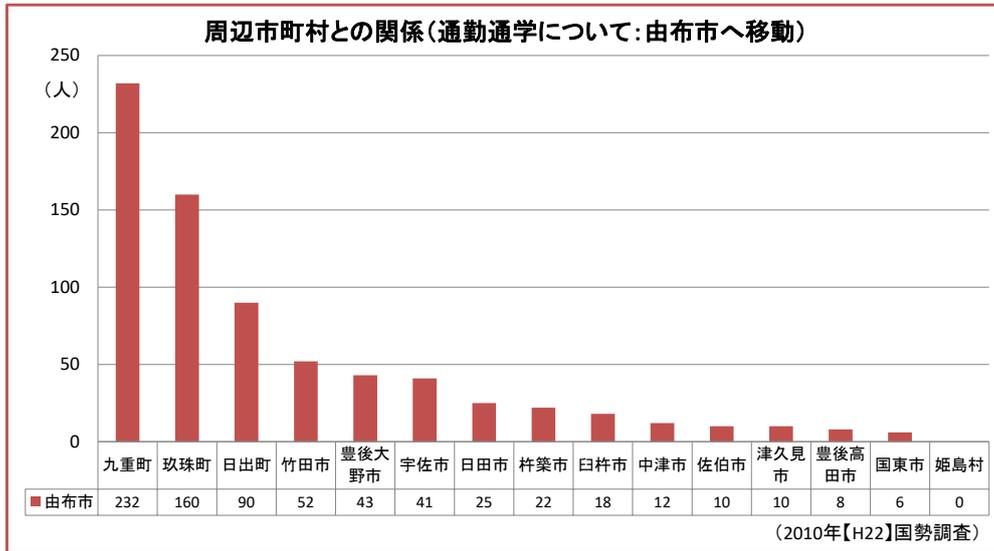
また、大分市、別府市の人口移動は、転出超過となっており、人口減少の社会減に影響を与えています。



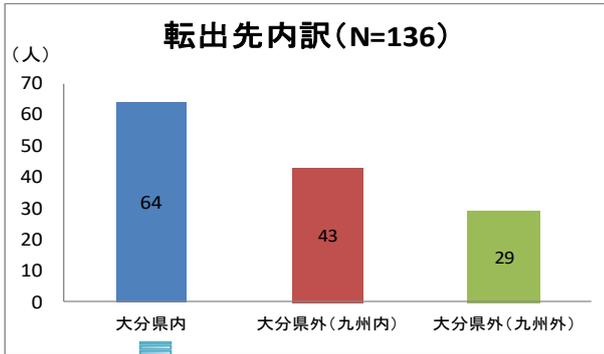
⑤ 周辺市町村との関係(通勤通学：由布市から移動)



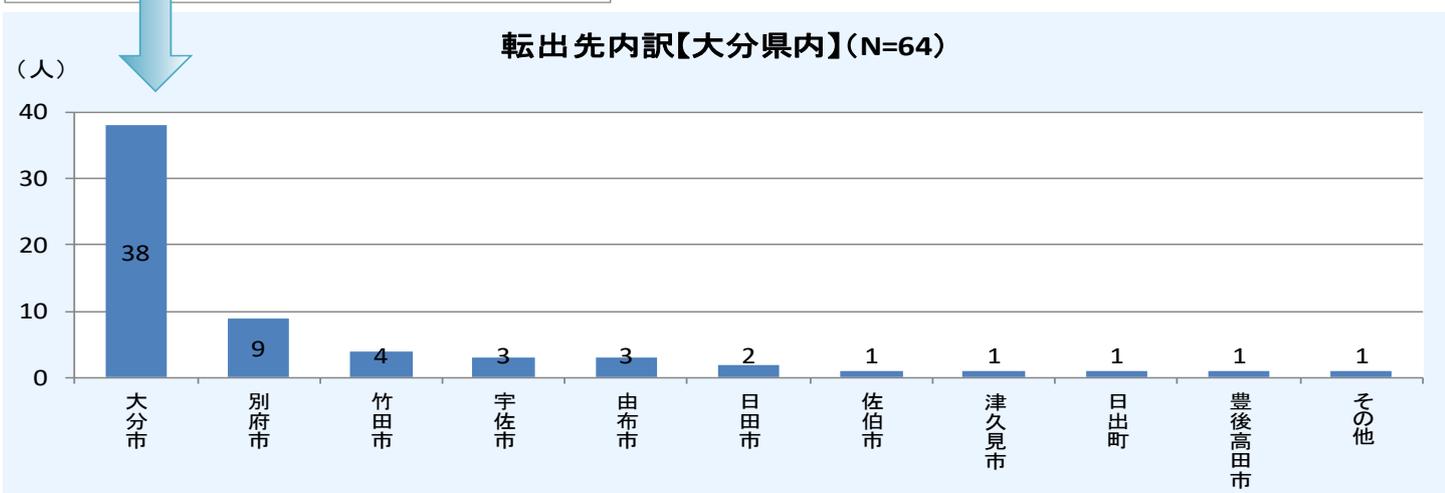
⑥ 周辺市町村との関係(通勤通学：由布市へ移動)



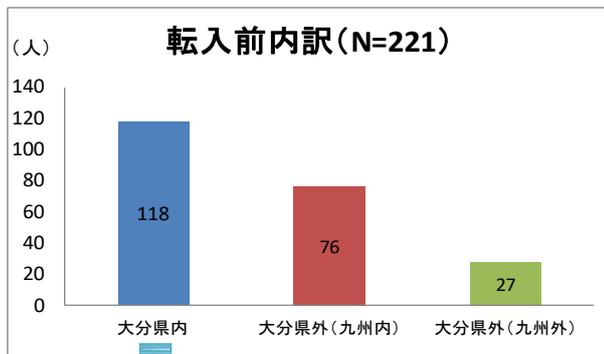
⑦ 転出者アンケートの結果



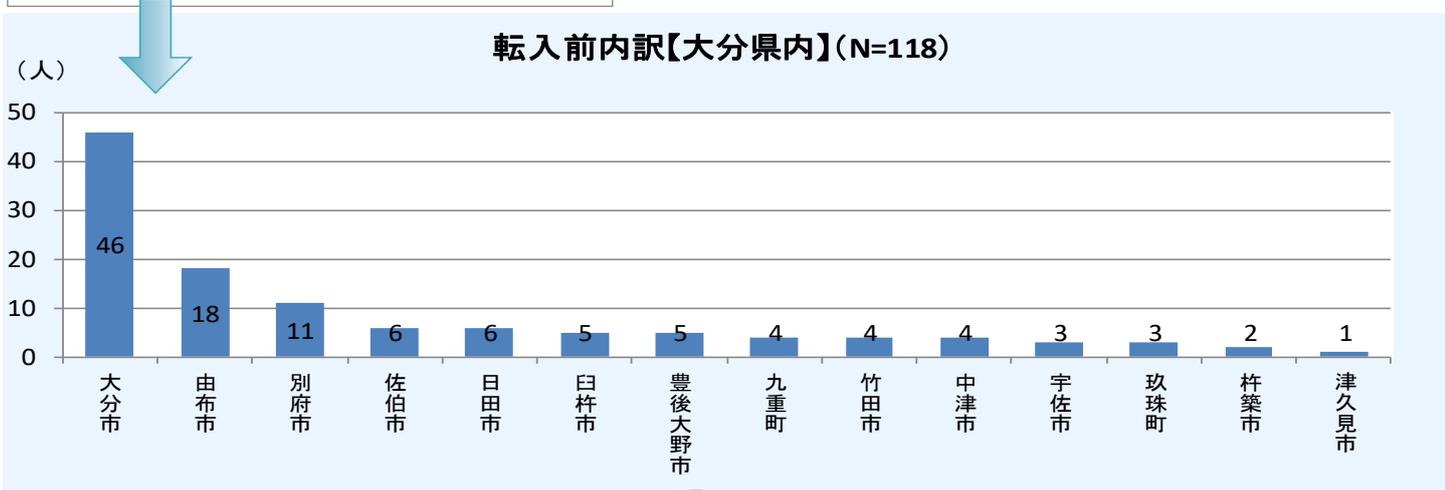
- 【転出者アンケート回答数136人】
- ・転出者アンケート
  - ・実施期間  
2015(平成27)年3月・4月
  - ・県内転出者64人：47%



⑧ 転入者アンケートの結果

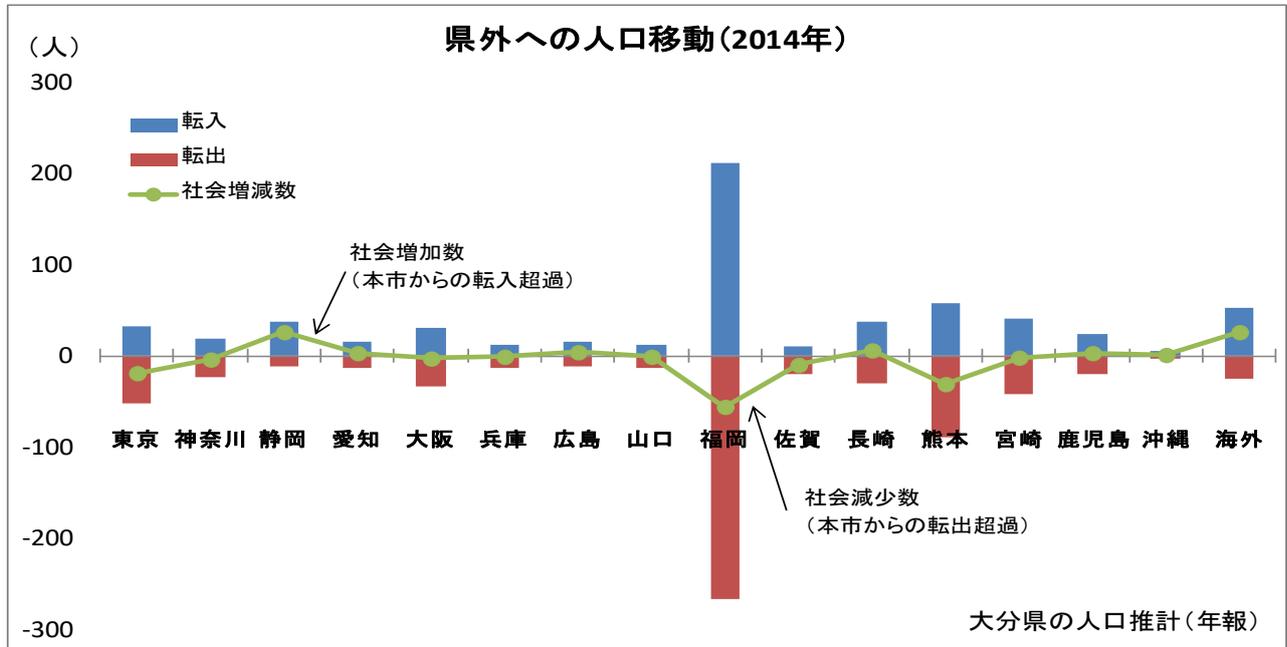


- 【転入者アンケート回答数221人】
- ・転入者アンケート
  - ・実施期間  
2015(平成27)年3月・4月
  - ・県内転入者118人：54%



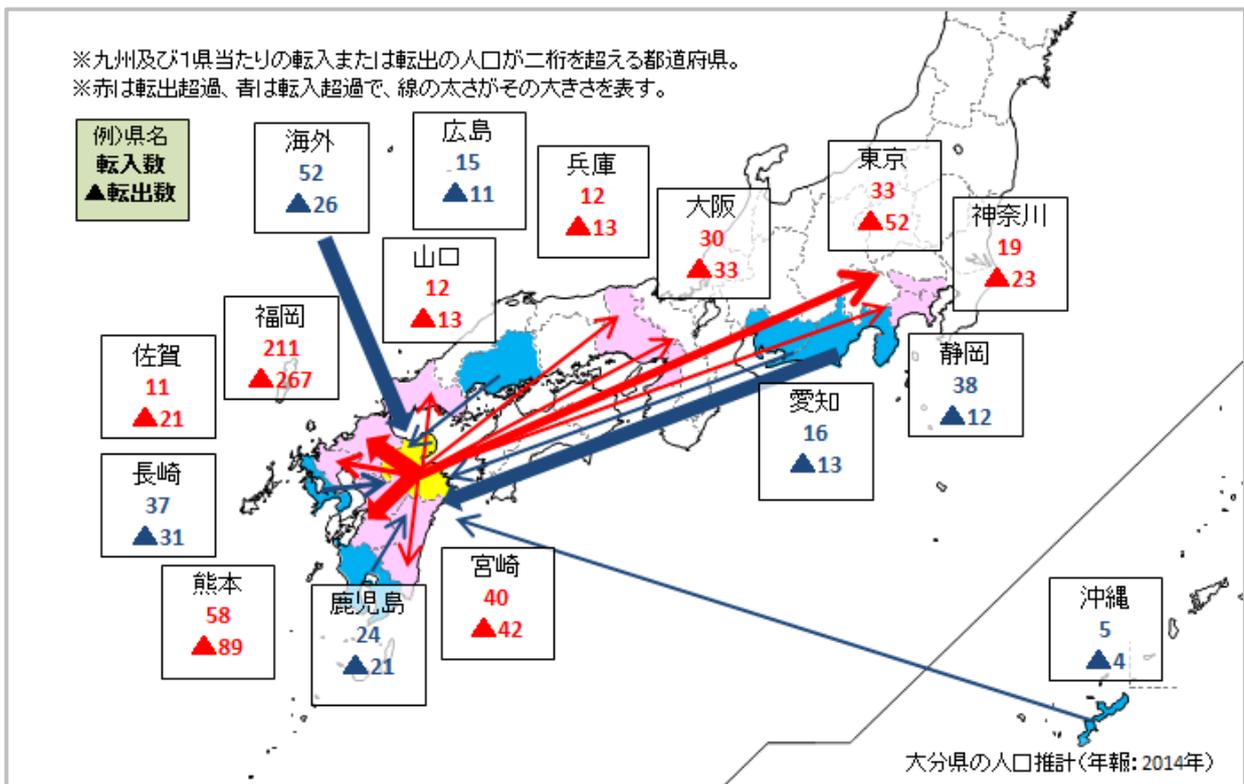
⑨ 県外への人口移動

2014(平成26)年の由布市から県外への人口移動を見ると、圧倒的に福岡県への転出者が179人、転入者が174人と一番多く、続いて、熊本県となっています。また、福岡県、熊本県への人口移動も転出超過となっており、人口減少の社会減に影響を与えています。



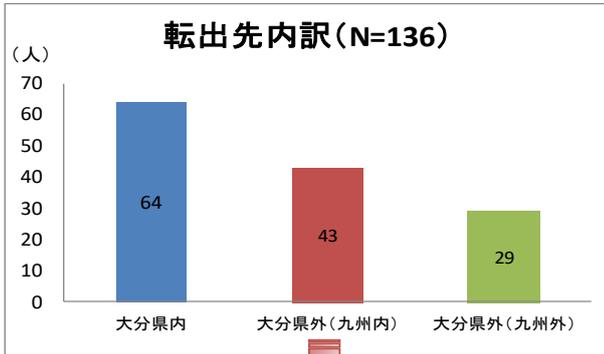
大分県の人口推計(年報)

⑩ 由布市からの県外への人口移動分析(地図でみた転出・転入状況)

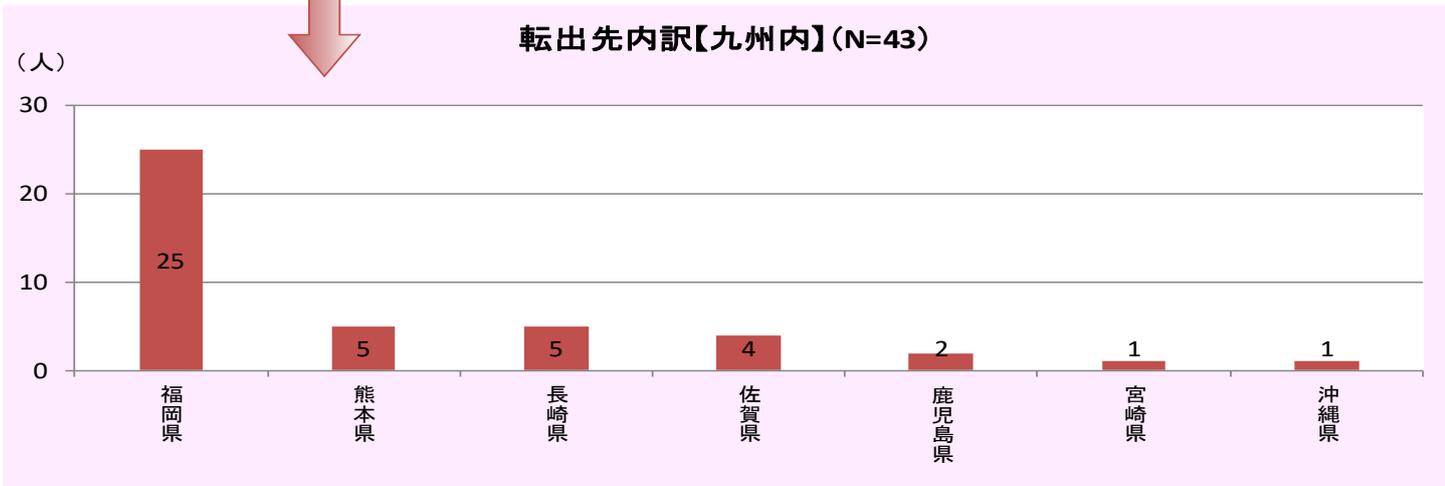


大分県の人口推計(年報:2014年)

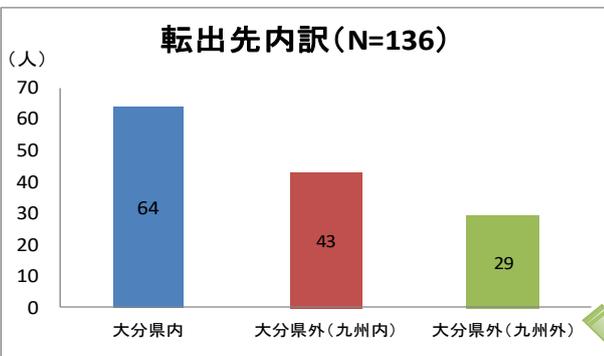
⑪ 転出者アンケートの結果



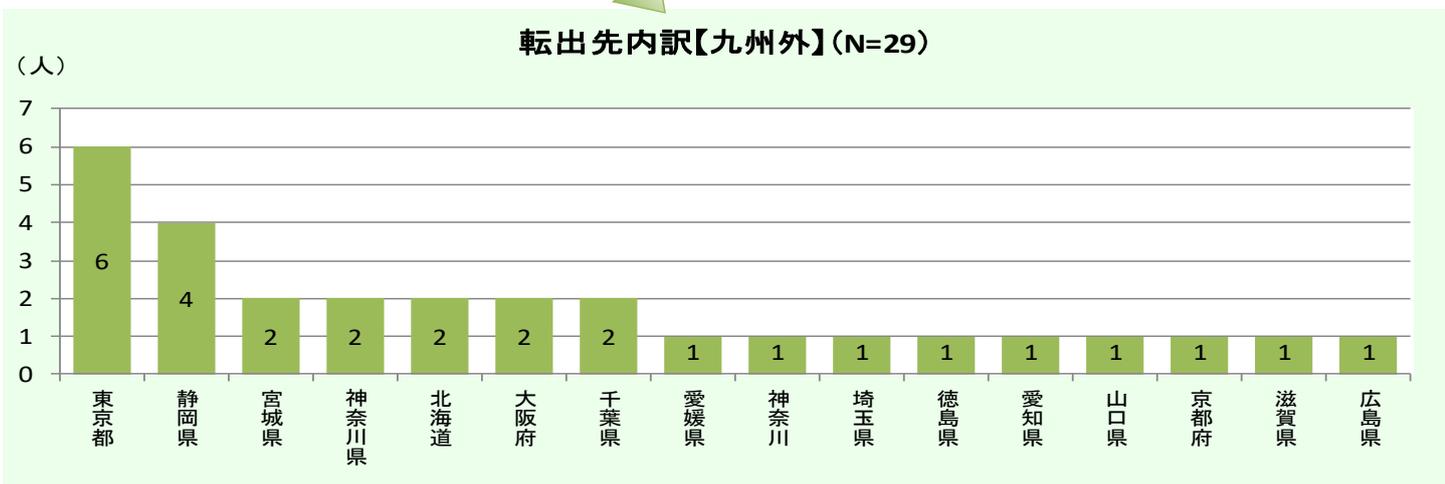
【転出者アンケート回答数136人】  
 ・九州内転出者43人：32%



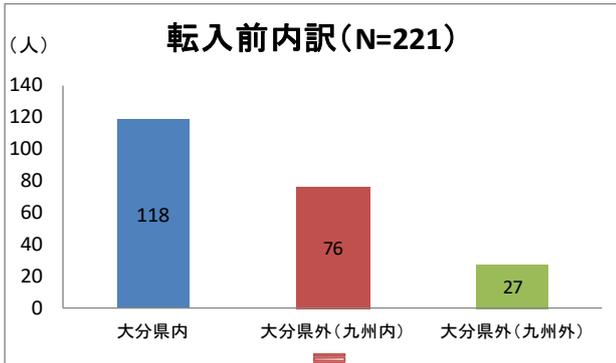
⑫ 転出者アンケートの結果



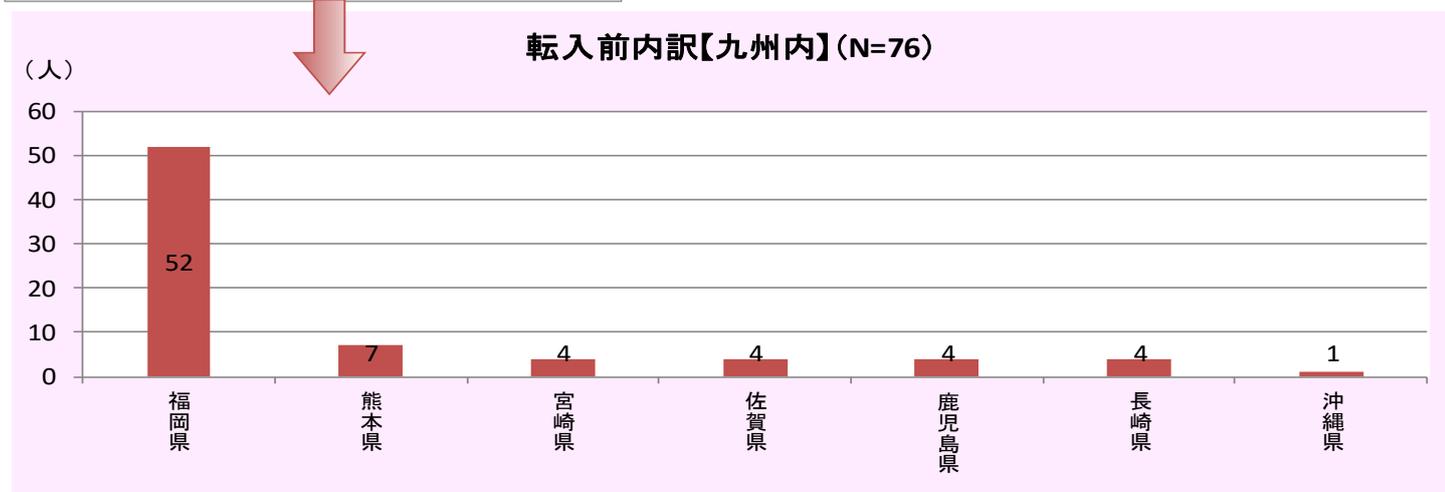
【転出者アンケート回答数136人】  
 ・九州外転出者29人：21%



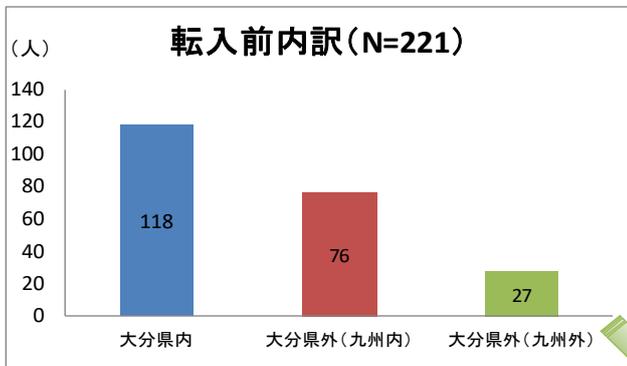
⑬ 転入者アンケートの結果



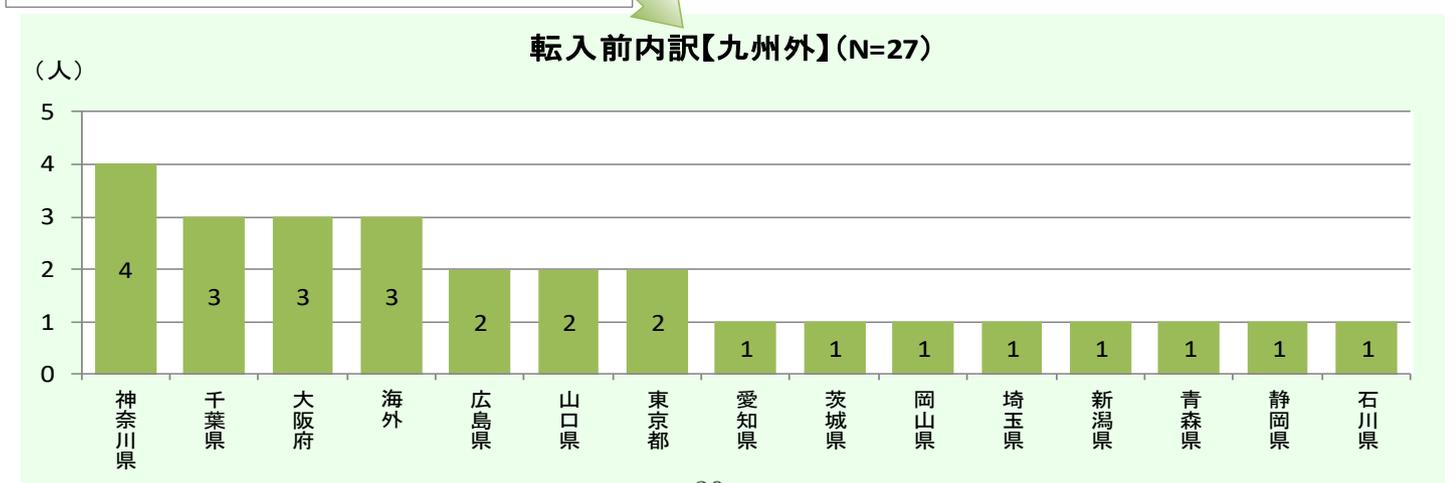
【転入者アンケート回答数221人】  
 ・九州内転入者76人：34%



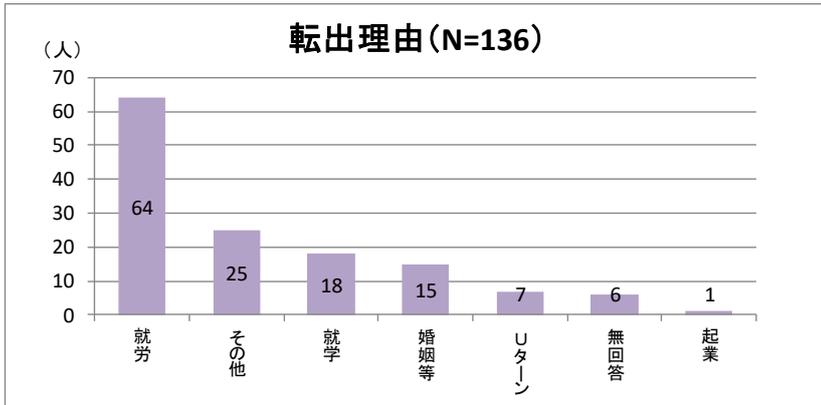
⑭ 転入者アンケートの結果



【転入者アンケート回答数221人】  
 ・九州外転入者27人：12%

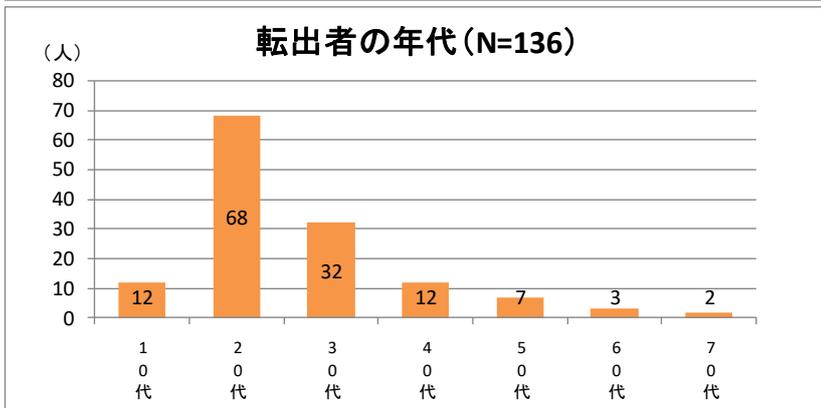


⑮ 転出者アンケートの結果



転出理由の構成

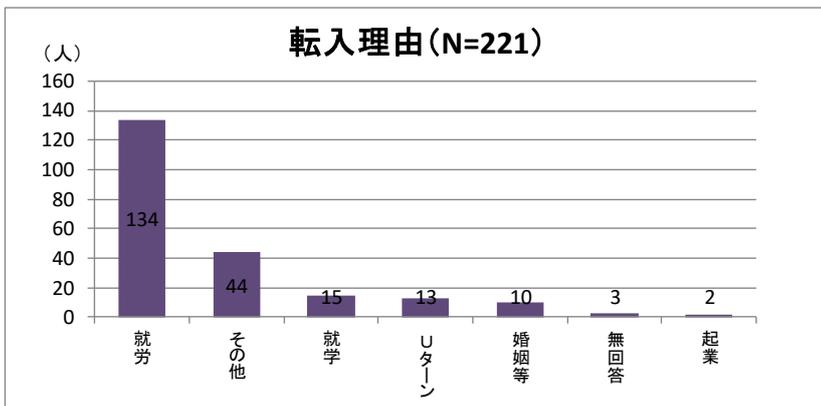
- ・就労 64人：47%
- ・その他25人：18%
- ・就学 18人：13%
- ・婚姻 15人：11%
- ・U I J 7人：5%



転出者の年代構成

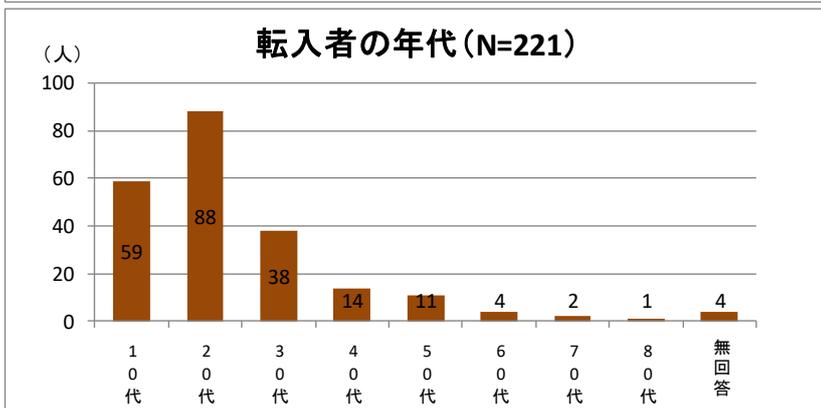
- ・10代 12人：9%
- ・20代 68人：50%
- ・30代 32人：23%
- ・40代 12人：9%

⑯ 転入者アンケートの結果



転入理由の構成

- ・就労 134人：61%
- ・その他 44人：20%
- ・就学 15人：7%
- ・U I J 13人：6%
- ・婚姻 10人：5%



転入者の年代構成

- ・10代 59人：27%
- ・20代 88人：40%
- ・30代 38人：17%
- ・40代 14人：6%

## 7 由布市の産業別就業者

### ① 産業別就業者の推移

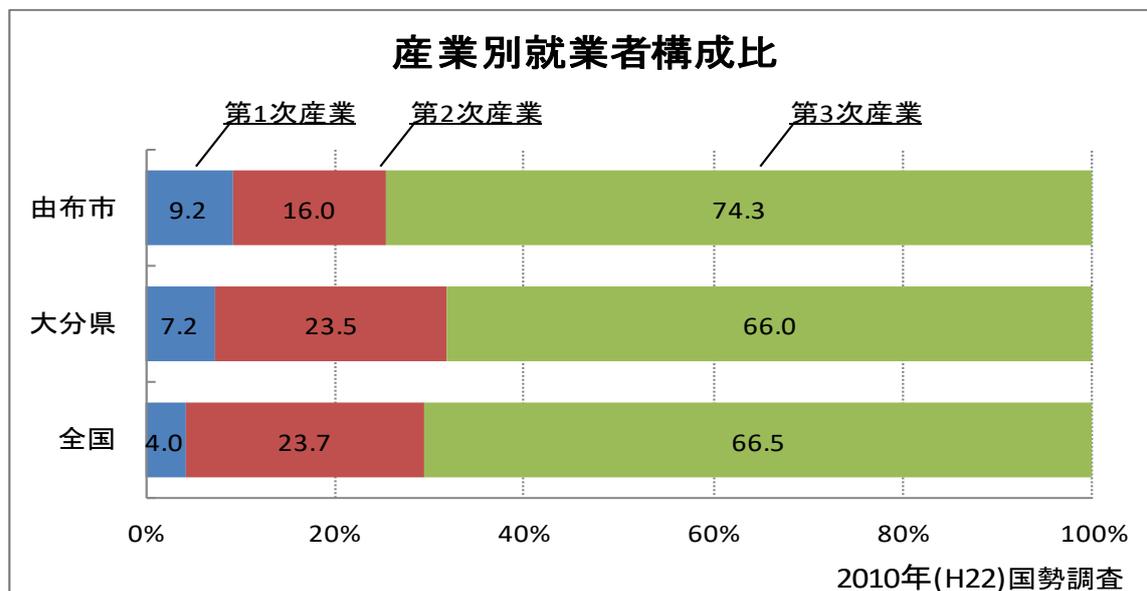
産業別就業者推移を見ると、本市の主要産業でもある第3次産業従事者の推移は、2005（平成17）年をピークに減少傾向に転じています。第1次産業、第2次産業従事者については、減少傾向が変わらない状況です。特に、第1次産業については、従事者の減少が激しく、1995（平成7）年から2010（平成22）年を見ると、1,344人減少の47%減となっており、厳しい状況がうかがえます。



### ② 産業別就業者構成比

産業別就業者構成比を見ると、由布市の第1次産業・第3次産業の就業者比率は、大分県・全国比から見ても高いですが、第2次産業の構成比は、大分県・全国比から見ても低い傾向にあります。

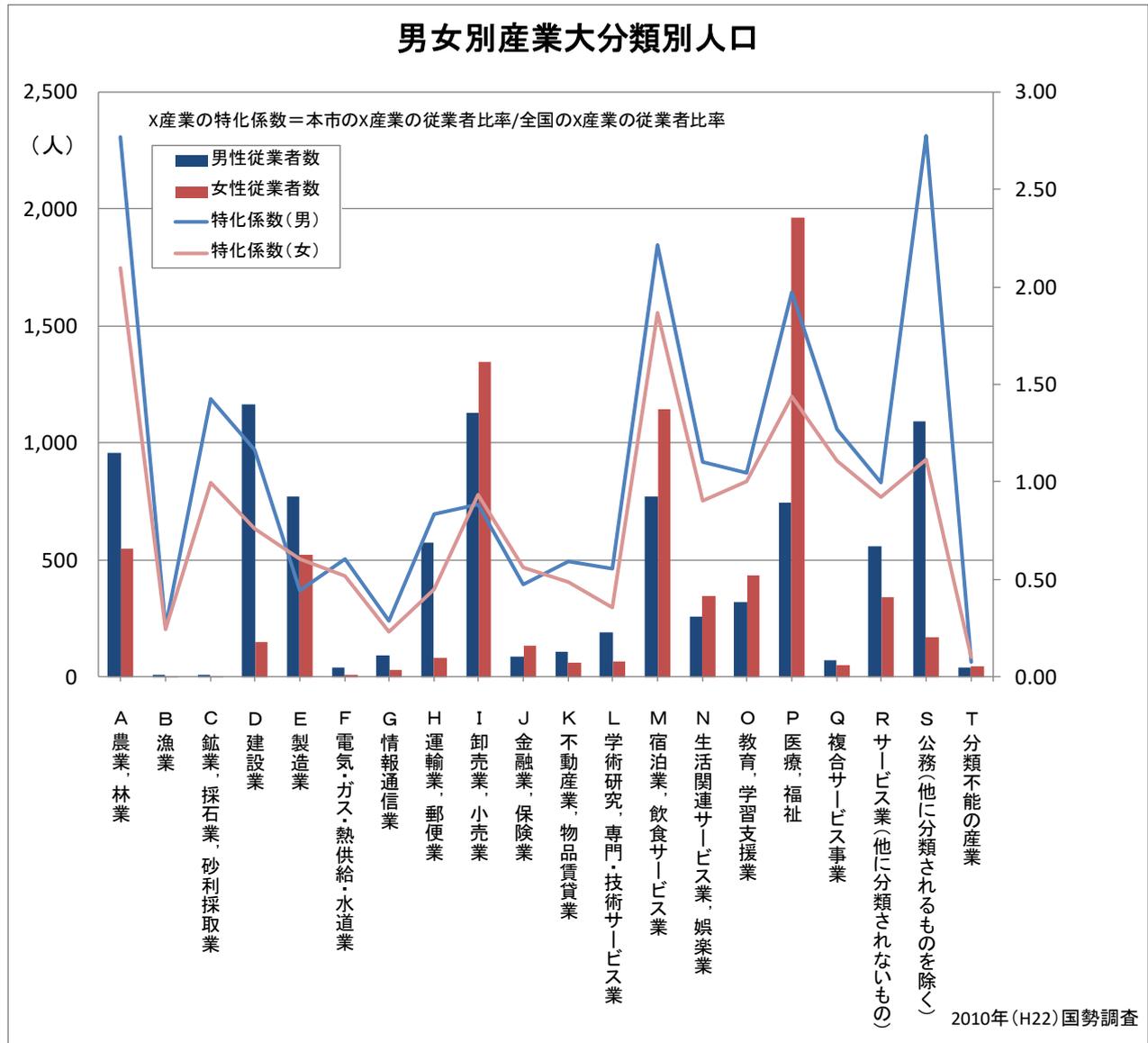
本市の就業者構成は、大分県・全国比から見ても農林業・観光産業に従事する就業者が高い比率にあることがうかがえます。



### ③ 男女別産業大分類別人口

男女別産業大分類別人口を見ると、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業、卸売業・小売業の従業者が圧倒的に多く、特化係数は男女とも、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業、農業・林業が高い値となっています。

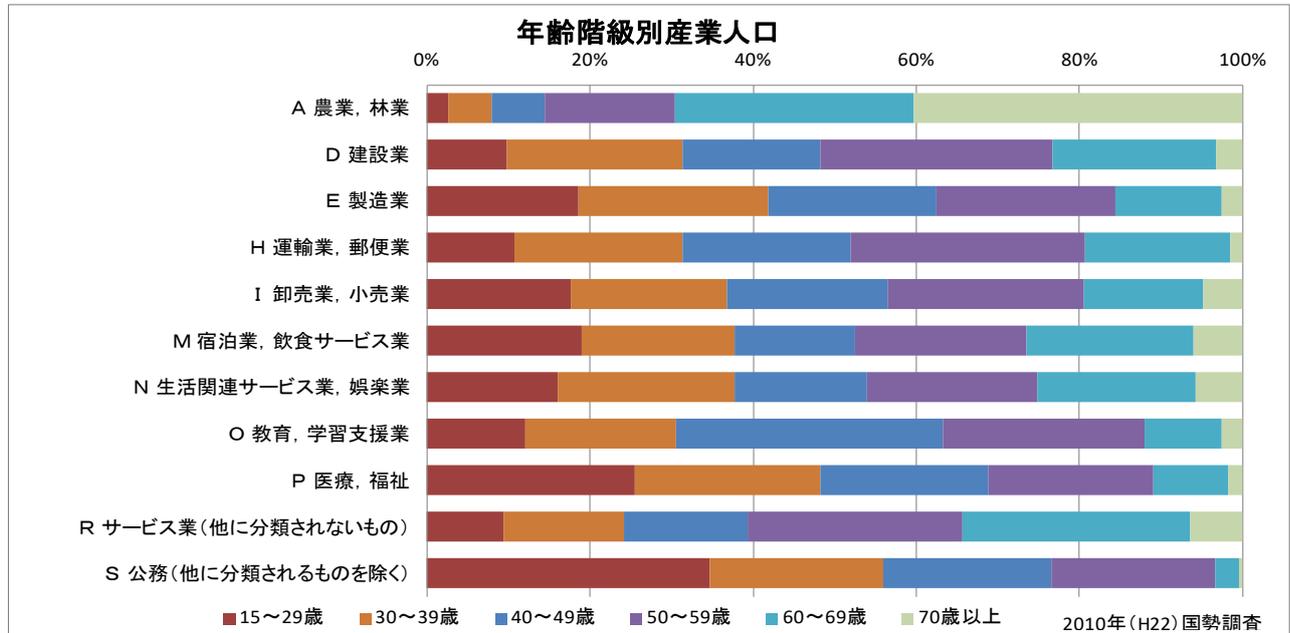
また、男性では建設業の従事者も多く見受けられます。由布市の特徴でもある、農業・林業に従事する特化係数の高さが顕著に表れています。



#### ④ 年齢階級別産業人口

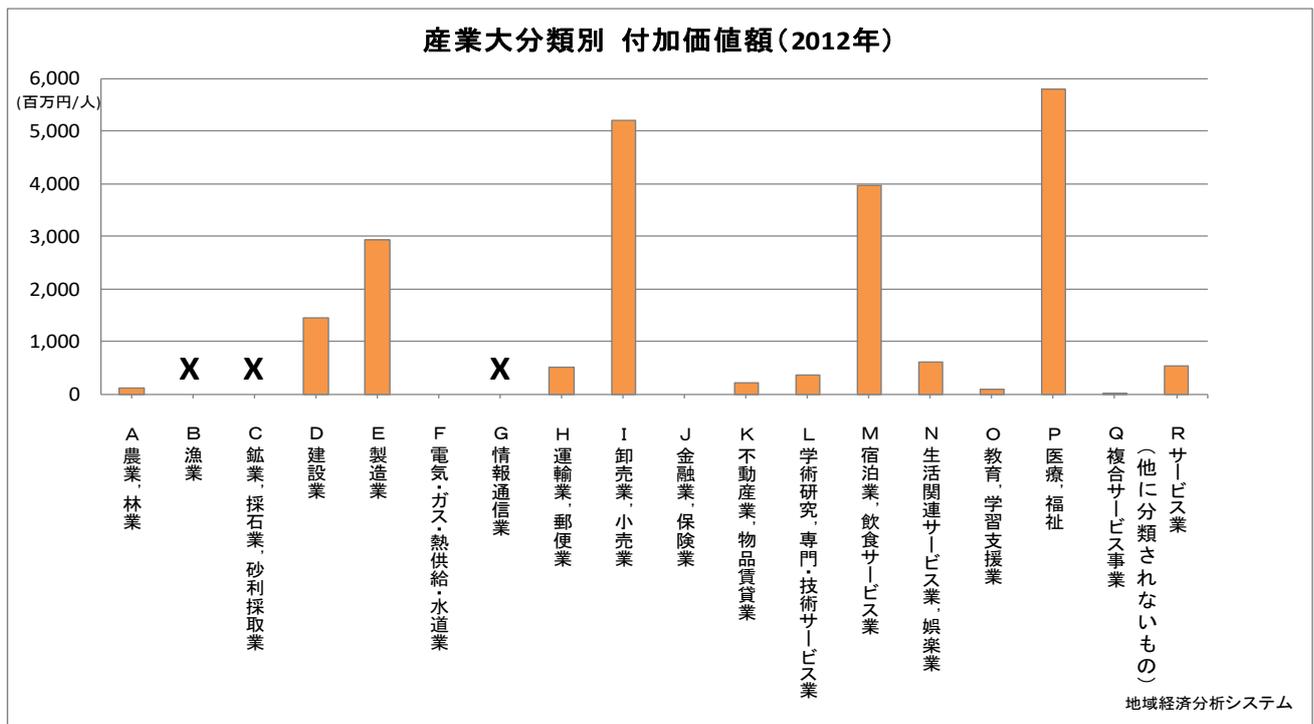
主な産業別に就業者の年齢階級を見ると、特化係数が最も高い農業、林業では、60歳以上が約3/4を占め、極端に高齢化が進んでいることが分かり、今後、急速に就業者が減少する可能性があります。

最も従業者が多い医療・福祉、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業は、年齢構成のバランスがとれており、幅広い年齢層の雇用の受け皿となっています。



#### ⑤ 産業大分類別 付加価値額

主な産業大分類別に付加価値額を見ると、医療・福祉、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業、製造業、建設業順に、由布市においての付加価値額が高くなっています。

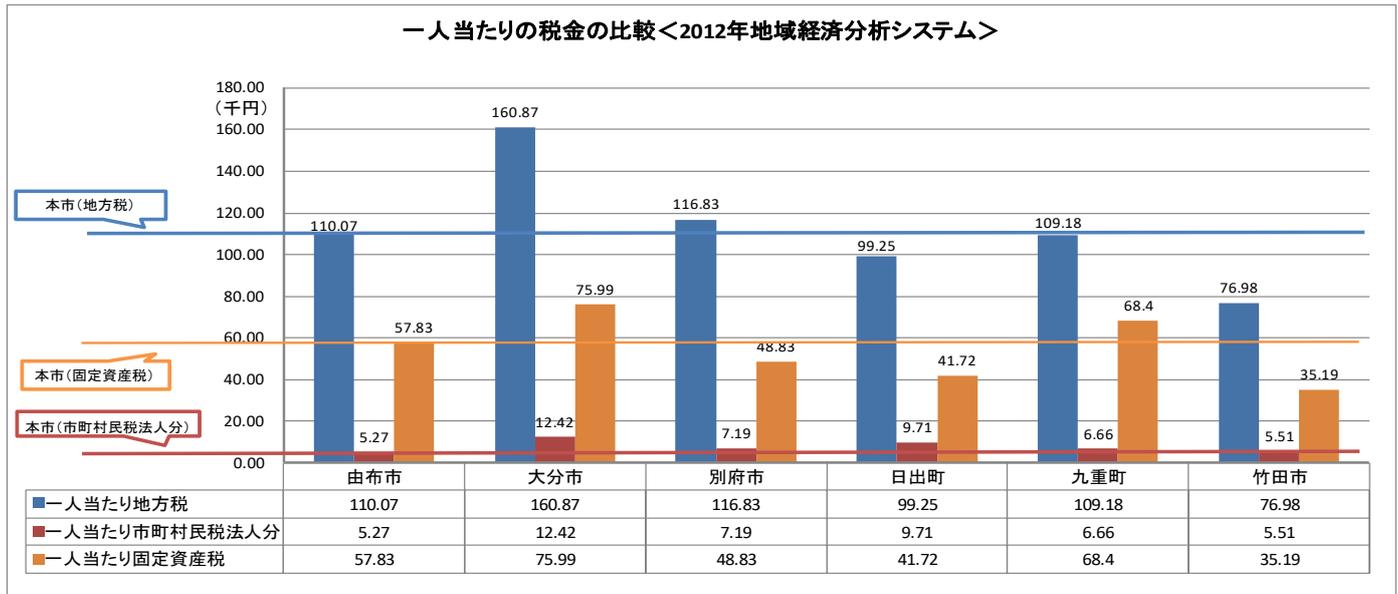


## 8 由布市の税収の状況分析

### ① 一人当たりの税の他市比較

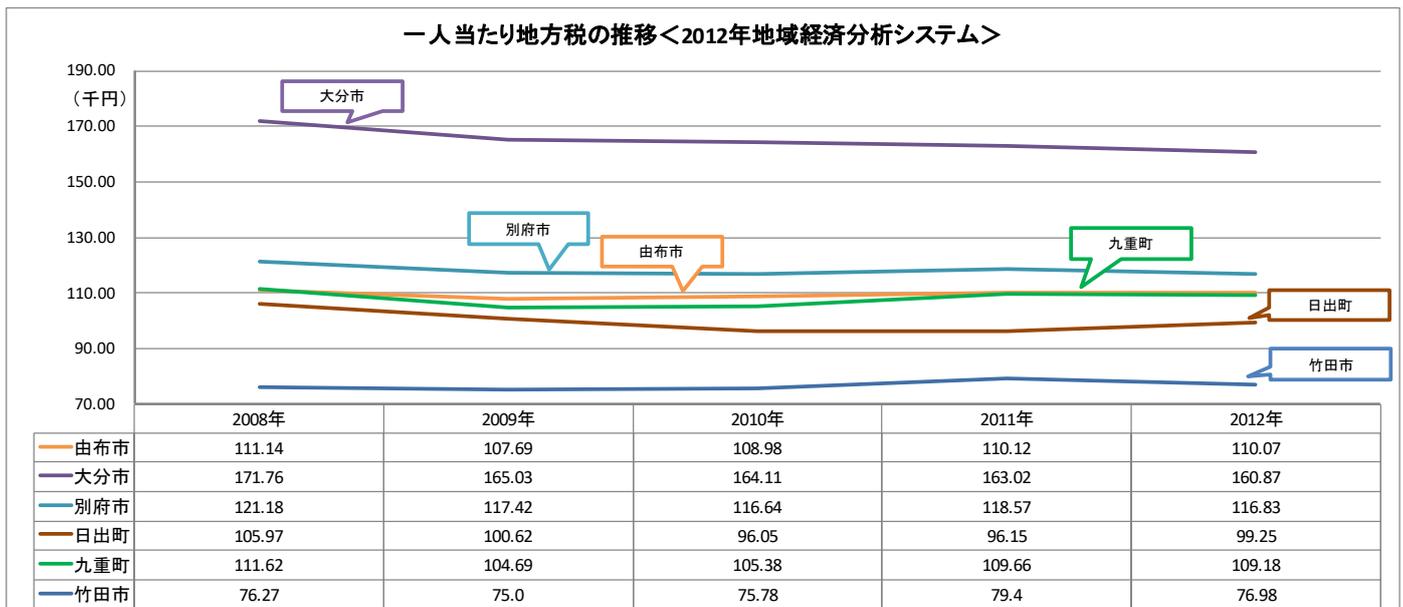
一人当たりの税金の近隣市町村との比較をした棒グラフは、地方税、市町村法人税、固定資産税となっていますが、一人当たりの地方税は、大分市の約68%となっています。しかし、別府市、九重町とはほぼ同程度となっています。また、一人当たりの固定資産税も大分市の約76%程度となっています。

一人当たりの法人税額は、大分市と比較すると、42%程度となっていますが、別府市と比較すると、さほど変わらないものとなっています。



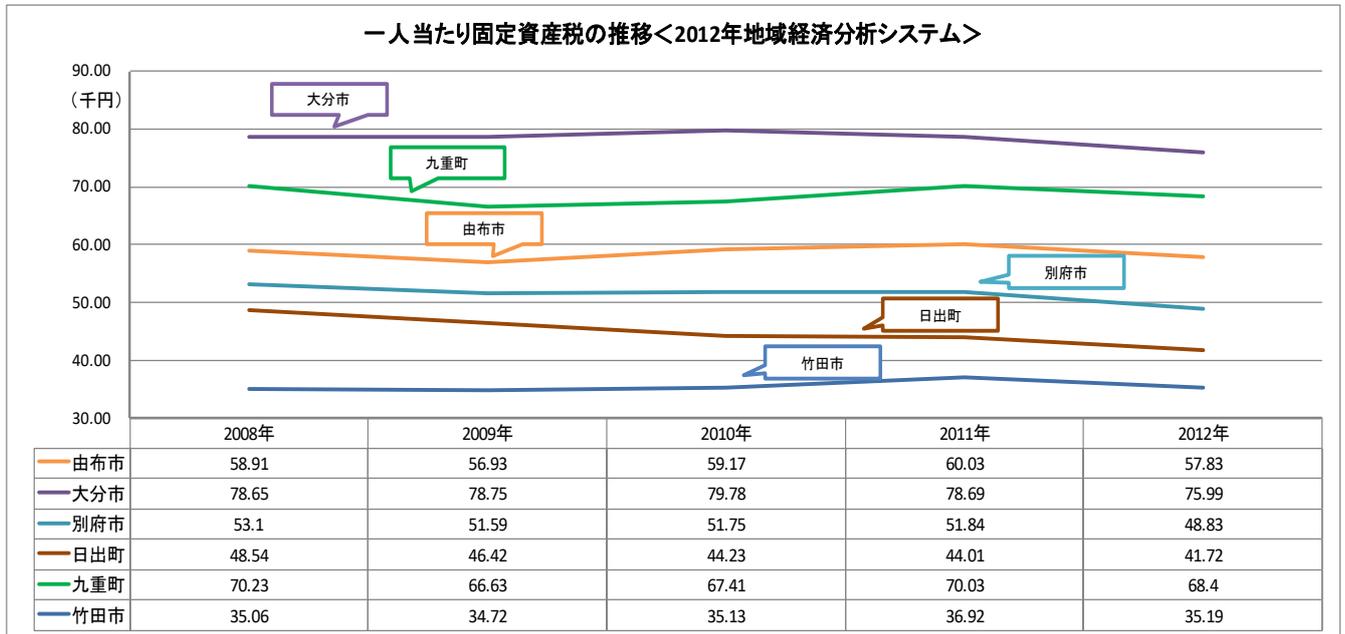
### ② 一人当たりの地方税の推移及び他市比較

一人当たりの地方税の2008(平成20)年からの推移で、近隣市町村との比較グラフとなっています。



### ③ 一人当たりの固定資産税の推移及び他市比較

一人当たりの固定資産税の2008(平成20)年からの推移で、近隣市町村との比較グラフとなっています。



## 9 国立社会保障・人口問題研究所の人口推移の概要

#### ア 推移期間

- 令和27年(2045年)までの5年ごと

#### イ 推移方法

- 5歳以上の年齢階級の推計においては、コーホート要因法を使用。
- コーホート要因法は、ある年の男女・年齢別人口を基準として、ここに人口動態率や移動率などの仮定値を当てはめて将来人口を計算する方法。
- 5歳以上の人口推計においては生残率と純移動率の仮定値が必要。
- 0-4歳人口の推計においては生残率と純移動率に加えて、子ども女性比および0-4歳性比の仮定値によって推移。
- 本推計においては、①基準人口、②将来の生存率、③将来の純移動率、④将来の子ども女性比、⑤将来の0-4歳性比、が必要となる。

#### ウ 基準人口

- 平成27年国勢調査人口

#### エ 将来の生存率

- 「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」(出生中位・死亡中位仮定)から得られる全国の男女・年齢別生存率を利用。

#### オ 将来の純移動率

- 原則として、平成17(2005)~27(2015)年に観察された市区町村別・男女年齢別純移動率

を平成27(2015)～32(2020)年にかけて定率で縮小させ、平成27(2015)～32(2020)年以降の期間については縮小させた値を一定とする仮説を置いた。

**カ 将来の子ども女性比**

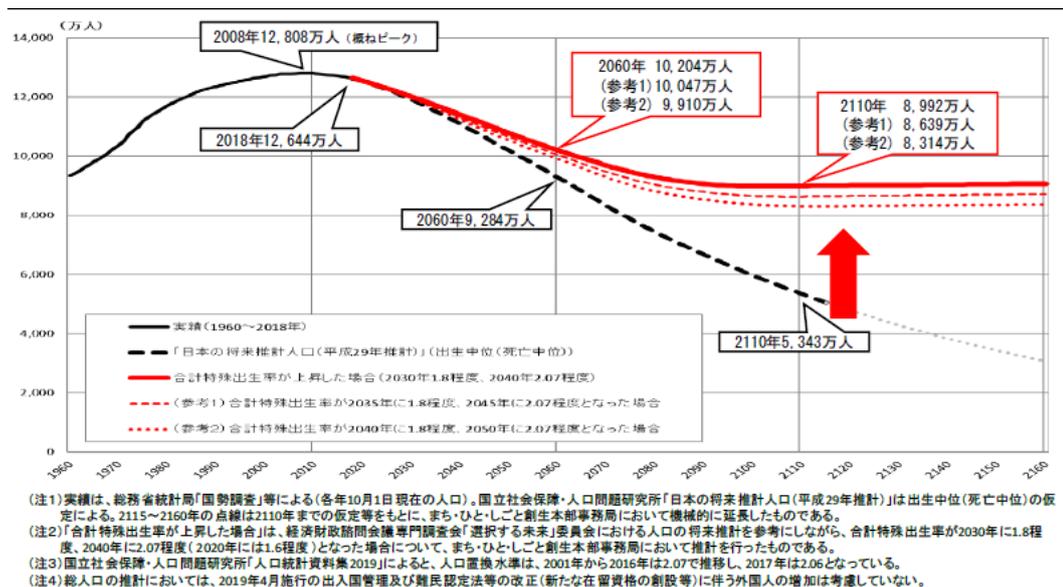
- ・各市町村の子ども女性比には市区町村で明らかな差が存在するため、平成22(2010)年の全国の子ども女性比と各市町村の子ども女性比との較差をとり、その値を平成27(2015)年以降平成52(2040)年まで一定として市区町村ごとに仮定値を設定。

**キ 将来の0-4歳性比**

- ・「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」(出生中位・死亡中位仮定)により算出された全国の平成27(2015)年以降平成52(2040)年までの0-4歳性比を各年次の仮定値とし、全自治体の0-4歳推計人口に一律に適用。

**図1. 我が国の人口の推移と長期的な見通し**

- 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」(出生中位(死亡中位))によると、2060年の総人口は約**9,300万人**まで減少すると見通されている。
- 仮に、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度まで上昇すると、2060年の人口は約**1億200万人**となり、長期的には9,000万人程度で概ね安定的に推移するものと推計される。
- なお、仮に、合計特殊出生率が1.8や2.07となる年次が5年ずつ遅くなると、将来の定常人口が概ね**300万人**程度少なくなると推計される。



## 10 大分県の人口シミュレーション

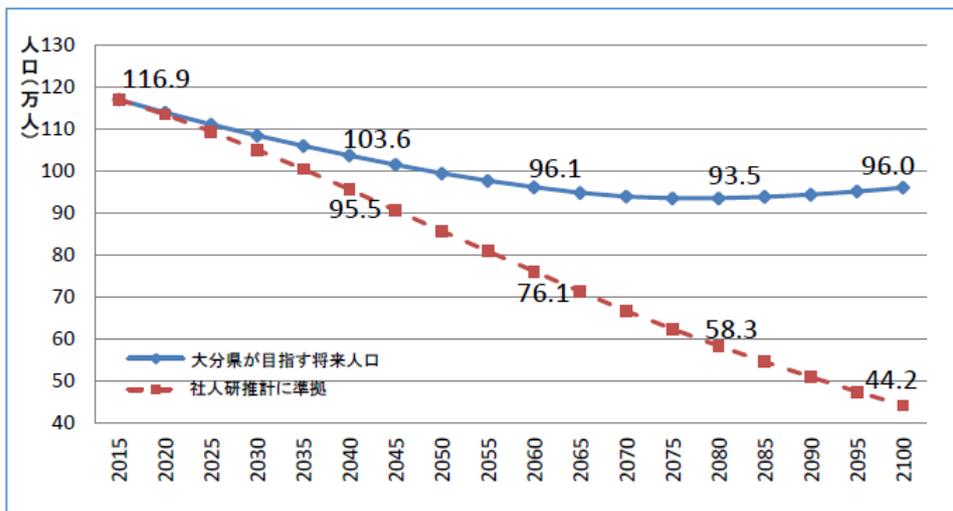
### (1) 大分県人口ビジョンの概要

#### ア 人口の現状分析

- 1986年以降緩やかな人口減少が続いてきたが、今後急激に人口減少が進行  
(2014年 117万人→2040年 96万人→2060年 76万人→2080年 58万人→2100年 44万人)
- 総就業者数も減少 (2010年 532千人→2040年 422千人)  
特に第1次産業従事者は現在の4分の1まで減少
- 小規模集落数が2025年には全集落の約4割まで増加
- 急激な高齢化の進行による県民医療費・介護給付費の増加

#### イ 人口の将来展望

- 自然増と社会増の両面からの取組をこれまで以上に進めることで、2060年までの人口減少カーブをできる限り緩やかにし、さらに2100年(今世紀末)には増加に転じさせ、100万人近い人口を維持(対策を講じなかった場合の2倍以上の人口増)



※合計特殊出生率仮定値

2030年に2.0(県民希望出生率)→2040年に2.3(国仮定値+0.2ポイント)

社会増仮定値

2020年に増減均衡→2025年以降社人研想定+1,000人程度(国全体目標の1%程度)

- 大分県が目指す将来人口における自然増減と社会増減の影響

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年	2075年	2080年	2085年	2090年	2095年	2100年
社会増減	-2,538	36	842	1,226	1,285	1,480	1,470	1,408	1,345	1,311	1,370	1,387	1,342	1,275	1,236	1,224	1,214	1,208
自然増減	-4,535	-6,205	-6,585	-6,424	-6,220	-6,063	-5,875	-5,468	-4,918	-4,366	-4,020	-3,178	-2,148	-1,228	-589	-161	257	662
増減計	-7,073	-6,169	-5,743	-5,198	-4,935	-4,583	-4,405	-4,060	-3,573	-3,055	-2,650	-1,791	-806	47	647	1,063	1,471	1,870

# 11 将来人口の推移と分析

## ① 社人研推計による総人口・年齢区分別人口の推移

2015(平成27)年の国勢調査人口を基礎数値とした、社人研推計準拠から推計をされる由布市の総人口・3区分年齢の推計を見ると、総人口の推移は、2015(平成27)年34,262人の人口が、2065(令和47)年には、24,534人に減少すると推測されています。老年人口についても、2020(令和2)年の11,657人をピークに減少していくと推測されています。



② 独自推計パターン3による将来人口の推計と分析



第2期 由布市 まち・ひと・しごと創生 総合戦略に係る 人口ビジョン整理

第1期	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065
国勢調査人口(実績)	34,702	34,262										
人口ビジョン 目標値		33,660	32,414	31,068	29,701	28,326	26,897	25,444	24,063	22,748	21,475	
				32,000							28,000	

第2期	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065
P1 社人研推計		34,262	33,561	32,673	31,766	30,818	29,766	28,622	27,562	26,563	25,575	24,534
※合計特殊出生率			1.67547	1.65838	1.66493	1.67267	1.67516	1.67954	1.67954	1.67954	1.67954	1.67954
※移動率	社人研による男女・年齢別による指定率(男女・年齢・年次毎に異なる)											
P2 独自推計		34,262	33,605	32,872	32,204	31,590	30,979	30,299	29,746	29,329	29,021	28,737
※合計特殊出生率		1.59	1.75	1.87	2.00	2.15	2.30	2.30	2.30	2.30	2.30	2.30
※移動率	独自の指定なし(社人研と同じ)											
P3 P1+出生率		34,262	33,629	32,946	32,360	31,719	30,985	30,191	29,516	28,925	28,385	27,838
※合計特殊出生率		1.59	1.76	1.93	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10
※移動率	P1(社人研)と同じ											
P4 P3+移動均衡		34,262	33,278	32,343	31,511	30,653	29,735	28,902	28,221	27,654	27,154	26,684
※合計特殊出生率		1.59	1.76	1.93	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10
※移動率	男女・年齢別による指定率(各年次の率を一定にした場合)											
P5 第1期展望	34,702	34,619	33,630	32,651	31,751	30,944	30,175	29,447	28,849	28,374	28,000	

## 12 人口の現状分析等のまとめ

### (1) 人口減少時代の認識

本市の人口は2005(平成17)年までは、自然減を社会増で補い微増傾向にありましたが、合併をした2005(平成17)年から人口減少に転じ、市制施行時の35,386人が、2014(平成26)年には33,826人までに減少しました。一方、合計特殊出生率は合併以来、子育て支援政策に取り組んだことで上昇していて、2014(平成26)年度には、1.63まで上昇をしています。しかし、人口規模が長期的に維持される水準(人口置換水準2.07)を下回る状態は今日まで続いています。

また、本市でも、地方都市に共通の特徴である、20歳代前半から30歳代前半の結婚適齢期層人口の、極端な減少傾向が見られます。このことは、出生数にも大きく影響を及ぼし、人口減少に拍車をかけることが懸念されます。

### (2) 市内人口集中地域と人口減少地域の懸念

1995(平成7)年国勢調査から2010(平成22)年国勢調査人口の比較をすると、3地域の人口の推移は、挾間地域は増加していますが、湯布院地域、庄内地域は減少しています。

また、大字ごとに比較しますと、湯布院地域の川北、挾間地域の向原、挾間、北方、下市、赤野、古野は増加していますが、その他の地域は微減、また、周辺部においては減少傾向が加速をしています。

挾間地域の人口増加要素の一因としては、市外からの転入者、又は、湯布院地域・庄内地域・挾間周辺部等から、アパート・戸建て住宅の建設による、市内移動状況も顕著に表れています。

### (3) 自然減少による総人口減少の懸念

本市では、自然減少状態である死亡者数が出生者数を上回る状況が続いています。本市の平均寿命は、男性80.8歳、女性86.7歳ですが、老年人口の増加は、2020(令和2)年をピークに減少傾向に転じます。いわゆる人口減少の第3段階に突入することになります。また、出生数も横ばい傾向から減少傾向にあり、今後人口の自然減少は加速することが懸念されます。

#### (4) 福岡県や近隣市への転出超過による人口減少進行の懸念

本市の社会動態の推移を見ると、最近では、転入者・転出者とも、年間3,300人弱程度と人口移動が落ち着き、社会増減は拮抗した状態にありました。

しかし、2011(平成23)年からは、転出超過の傾向が顕著な動きとして見受けられます。

また、人口動態を近隣市町村別に見ると、大分市、別府市への転出超過傾向が続いていることが分かります。

県外への人口移動を見ると、本市から福岡県への転出超過が、社会動態全体に大きな比重を占めており、特に、大学卒業後の本市への再転入者や転入者が現在よりも伸び悩めば、出産適齢期の女性や子育て世代の若者が減少し、出生率の急激な上昇が見込めない要因と相まって、出生数がさらに減少してしまうという、人口減少の負のスパイラルが現れると懸念されます。

#### (5) 人口減少による地域経済規模縮小の懸念

人口減少によって経済規模の縮小がいったん始まると、それが更なる縮小を招くという「縮小スパイラル」に陥るリスクがあります。

また、急激な人口減少や高齢化は、生産年齢人口の減少や消費市場の縮小を引き起こすため、地域経済規模の縮小が懸念されます。そして、それが社会生活サービスの低下を招き、更なる人口流出を引き起こすという悪循環を招くと危惧されます。

本市の産業別人口を見ると、医療・福祉部門、宿泊業・飲食サービス業、卸売業・小売業の従業者が突出しており、それに建設業、農林業等が続いています。

また同様に、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業、製造業が本市の主要産業であり、生産年齢人口の減少に伴う、観光産業等の構造に大きな影響を招くことも危惧されます。

特に、農林業の年齢構成については、60歳以上の高齢者が7割を占めており、農業の維持すら危ぶまれる状況であり、農産物の生産等にも影響を与えることが懸念されます。

## 13 人口減少問題に取り組む基本的視点

### (1) 4つの基本的視点

人口減少への対応は、次の二つの方向性が考えられます。一つは、国の長期ビジョンが指摘するように、出生者数を増加させることにより人口減少に歯止めをかけ、将来的に人口構造そのものを変えていくことにつながるものです。もう一つは、転出者を抑制し、転入者の増加による政策誘導を図るものであり、この二つの対応を同時並行的・相乗的に進めていくことが、人口減少の歯止めとそれを超えて調和的な人口に転じていくうえで大変重要であり、仮定値を用いた人口推計からも明らかとなっています。

こうしたことから、本市の人口の現状分析を踏まえ、さらには、大分県人口ビジョンを勘案し、人口減少問題に取り組む基本的視点として、次の4点を掲げます。

### I 由布市における安定した雇用を創出する

本市は農林業従事者の高齢化が進んでおり、農林業の担い手の育成が喫緊の課題です。そのためには、経営規模拡大、6次産業化・ブランド化推進、観光産業と連携した所得向上の施策を展開することで、担い手育成や新規就農者の拡充を進めます。

また、旅館業や小売業等の後継者の育成も重要であり、特に若者世代の雇用創出を生み出すためには、企業・起業の支援等の施策に取り組む必要があります。

### II 由布市への新しい人の流れをつくる

由布市のブランド力でもある、由布院温泉を核とした持続可能な観光まちづくりと連携した施策を展開し、観光交流者の「滞在時間の延長」から「週末移住」さらには「移住定住」へとつながる取り組みを進めます。

さらに、由布市の魅力を発信することが重要であり、情報発信を充実させることで、交流人口の増加を図り、魅力ある由布市を知ってもらうことにより、若者・移住者等が定住できるような環境整備が求められます。特に、住宅用地等の確保の施策に取り組む必要があります。

### Ⅲ 由布市での若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

子どもは、私たちに喜びと活力を与えてくれる宝であり、将来の由布市を担う大切な財産です。すべての子どもたちが健やかに育ち、笑顔絶やさないことは、誰もが願うことであり、そのための環境をつくることは私たちの責務です。

しかし、地域におけるつながりの希薄化や少子化、核家族化の進行等により、子育てに対する保護者の不安感や負担感が増大し、さらに、両親の共働きやライフスタイルの変化により、子どもたちが安全に安心して過ごせる居場所が少なくなっています。

そのような中、子育て環境の整備をさらに推し進め、若者の定住政策を推進するとともに、出生数を上げていくことが必要となってきます。

また、本市の持つ強みの一つでもある、県都大分市の隣接市としてのポテンシャル(潜在力)に磨きをかけるとともに、若者の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる為の明確な方向性、戦略を打ち出す必要があります。

### Ⅳ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

本市では、多くの高齢者が健康で活動的な生活を送っています。そして、今後、団塊の世代が後期高齢者へと移行します。加えて、近年では核家族化の進展により家族による送迎が期待できない高齢者が増加しています。

このような高齢者が健康を保ち、積極的に社会参加できる公共交通体系等の環境整備に取り組む必要があります。

健康立市に伴う事業を推進することで、健康寿命を延ばし、生活の質の向上を目指すことで、安全・安心な暮らしと元気で持続可能な地域づくりに取り組めます。

さらには、周辺部の過疎化が今後進行することが懸念されることでもあり、地域と地域との連携した住みよい住環境の施策、大分都市圏域での広域的な施策、大学との連携した施策に取り組む必要があります。

## 14 由布市の人口の将来展望

### ① 将来展望の基礎となる市民意識

#### ア 市民アンケートの概要

- ・調査地域 由布市全域
- ・調査対象 満18歳以上の市民(無作為抽出)3,000名
- ・調査方法 Web調査(回答困難な方に限り紙媒体による調査)
- ・実施時期 令和元年6月～8月
- ・回収率 24.7%

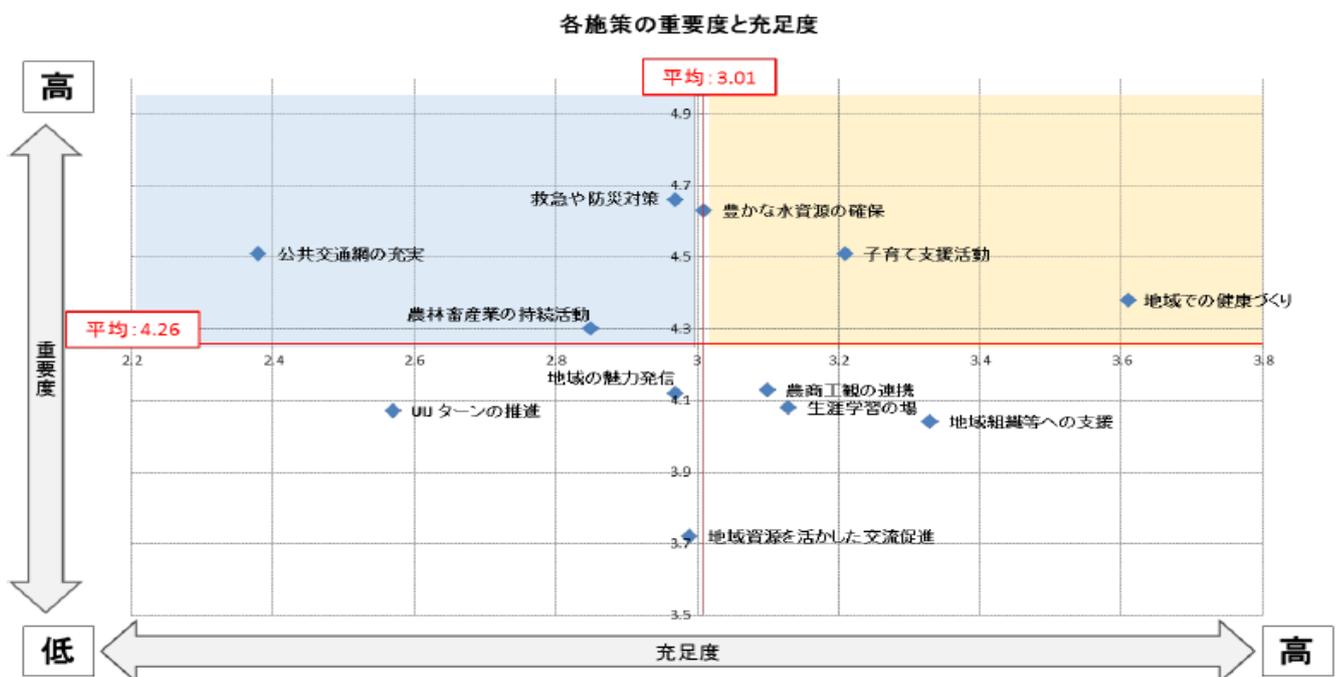
#### イ 市民意識調査の考察

次ページの②で市民意識調査の散布図グラフを示しています。

縦軸に重要度、横軸に充足度とした散布グラフからは、保育サービス、幼稚園教育、子供への医療費助成等の子育て支援活動については充足度・重要度が高い傾向にあります。次いで地域での健康づくり等、市民の健康意識や健康に関する取り組みがあげられます。次に、重要度は高いが、充足度は低いといった特徴的な部分では、農商工観光といった産業振興・地域組織の支援・生涯学習といった分野があげられています。

市民は、地域の担い手不足や地域経済の継続性等について不安感を抱いている一方、定住政策や、公共交通・道路整備などについてまだまだ不足していると意識しており、政策の実行を求めています。

### ② 将来展望の基礎となる市民意識調査散布グラフ



市民意識調査結果より

①重要度

平均値の算出は、「不明（「わからない」＋無回答）」を除き、次の数式で算出している。

（重要×5点＋やや重要×4点＋あまり重要でない×2点＋重要でない×1点）／人数  
＝各施策の重要度の平均数

各問の最も割合が高い項目

施策分野	施策	全体	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答	平均	標準偏差
住民参加	問8 地域組織等への支援	724	36.3	40.1	7.0	6.4	9.5	0.7	4.04	1.16
消防・防災	問9 救急や防災対策	724	66.2	20.6	1.0	1.8	10.1	0.4	4.66	0.73
健康・医療	問10 公共交通網の充実	724	63.0	20.6	4.4	2.6	9.1	0.3	4.51	0.94
教育・文化	問11 地域での健康づくり	724	56.6	26.7	5.0	4.0	7.7	-	4.38	1.04
子育て	問12 生涯学習の場	724	40.7	36.6	7.9	5.9	8.8	-	4.08	1.17
農林畜産業	問13 子育て支援活動	724	62.7	20.4	3.3	3.3	10.2	-	4.51	0.96
自然環境	問14 農林畜産業の持続活動	724	44.6	30.9	4.8	3.3	16.2	0.1	4.30	1.02
交流	問15 農商工親の連携	724	39.8	33.1	8.1	4.0	14.8	0.1	4.13	1.12
	問16 豊かな水資源の確保	724	63.4	19.6	1.7	1.9	13.4	-	4.63	0.79
	問17 地域資源を活かした交流促進	724	29.4	33.6	17.1	6.5	13.3	0.1	3.72	1.31
	問18 地域の魅力発信	724	42.4	34.0	10.1	3.9	9.5	0.1	4.12	1.13
	問19 UIJ ターンズの推進	724	41.0	31.1	9.0	5.7	12.8	0.4	4.07	1.21

ほとんどの項目において「重要」「やや重要」の回答の割合が高い。

平均値でみると「地域資源を活かした交流促進」が唯一「4」を下回っており、他の設問に比して重要度が低いとみなされている。ただし、当該項目は他の項目に比し標準偏差が高く（1.31ptで最高値）、回答にばらつきがあることが認められる。

②充足度

平均値の算出は、「不明（「わからない」＋無回答）」を除き、次の数式で算出している。

（充分×5点＋やや充分×4点＋やや不充分×2点＋不充分×1点）／人数  
＝各施策の充足度の平均点数

各問の最も割合が高い項目

施策分野	施策	全体	充分	やや充分	やや不充分	不充分	わからない	無回答	平均	標準偏差
住民参加	問8 地域組織等への支援	724	12.7	34.1	18.9	8.0	25.6	0.7	3.33	1.32
消防・防災	問9 救急や防災対策	724	8.6	29.6	25.0	12.0	24.4	0.4	2.97	1.35
健康・医療	問10 公共交通網の充実	724	8.0	20.4	27.1	31.8	12.4	0.3	2.38	1.41
教育・文化	問11 地域での健康づくり	724	22.9	36.3	16.3	7.7	16.7	-	3.61	1.32
子育て	問12 生涯学習の場	724	12.0	32.6	22.9	11.7	20.7	-	3.13	1.37
農林畜産業	問13 子育て支援活動	724	16.9	25.1	20.0	11.6	26.4	-	3.21	1.45
自然環境	問14 農林畜産業の持続活動	724	8.6	18.4	21.0	11.7	40.2	0.1	2.85	1.41
	問15 農商工親の連携	724	9.7	22.0	18.2	8.7	41.2	0.3	3.10	1.39
	問16 豊かな水資源の確保	724	9.7	24.4	19.2	12.0	34.7	-	3.01	1.41
交流	問17 地域資源を活かした交流促進	724	10.9	20.3	19.6	11.6	37.4	0.1	2.99	1.44
	問18 地域の魅力発信	724	13.7	23.5	22.8	15.3	24.6	0.1	2.97	1.47
	問19 UIJ ターンズの推進	724	7.0	17.3	21.3	19.1	34.9	0.4	2.57	1.42

項目により「やや充分」と「わからない」とに分散している。「やや充分」が住民参加、消防・防災、健康・医療、教育・文化などすべての人の生活に結び付く項目に集中しているのに対し、「わからない」は子育て、農林畜産業、自然環境、交流等、個別利益や比較的新しい問題に関係する項目に集中している。実際、後者の項目は標準偏差がやや高い傾向にあり、回答者により充足度にばらつきがある。

ただし、「公共交通網の充実」の設問では、全設問のうち唯一「不充分」が最も多く回答されており、市民のニーズに対して施策が十分な効果を提供できていないものと判断できる。

### ③ 由布市が目指す人口の将来展望

#### ・ 由布市将来人口 28,000人

由布市の人口展望は、出生者数を増加させることにより人口減少に歯止めをかけ、将来の合計特殊出生率を大分県の目標水準、2015(平成27)年1.63を、2030(令和12)年に2.00、2040(令和22)年に2.30に合わせて上昇を見込んだ、子育て支援・出生率向上対策に関する施策展開を実施することで、年少人口の減少を抑制します。

次に、転出者の抑制を図り、転入者が増加するための雇用・労働・就業・継業施策や、移住定住政策誘導を図ることにより、社会増減を拮抗し人口減少に歯止めをかけることです。また、健康立市事業を推進し、健康寿命を延ばすことで、生産年齢人口を安定した人数で推移し、老年人口の増加を抑制することを目指すこととします。

以上の基本的視点に立つて、今後実施する人口対策の効果が十分実現すれば、第二次由布市総合計画の目標人口2025(令和7)年に32,600人を確保するとともに、2040(令和22)年に30,100人を確保できます。また、国の長期ビジョンで目標年次としている、2060(令和42)年に28,000人を確保します。

#### 1. 期間合計特殊出生率とコーホート合計特殊出生率

合計特殊出生率は「15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、次の2つの種類があり、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

##### A 「期間」合計特殊出生率

ある期間(1年間)の出生状況に着目したもので、その年における各年齢(15～49歳)の女性の出生率を合計したもの。

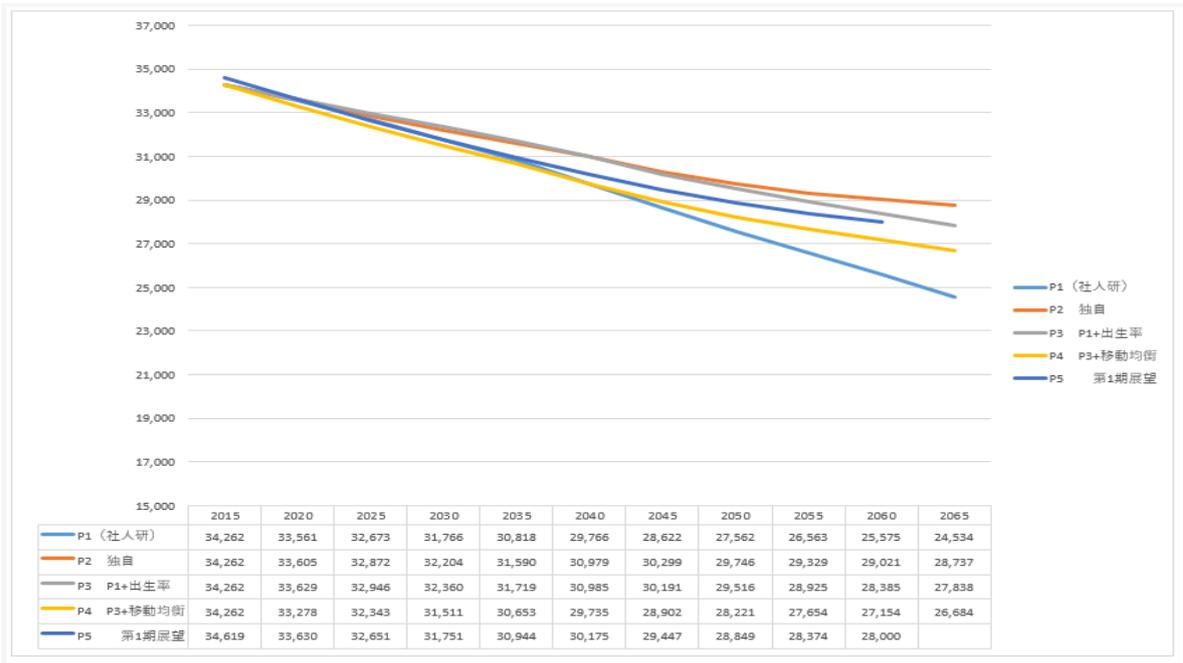
女性人口の年齢構成の違いを除いた「その年の出生率」であり、年次比較、国際比較、地域比較に用いられている。

##### B 「コーホート」合計特殊出生率

ある世代の出生状況に着目したもので、同一世代生まれ(コーホート)の女性の各年齢(15～49歳)の出生率を過去から積み上げたもの。

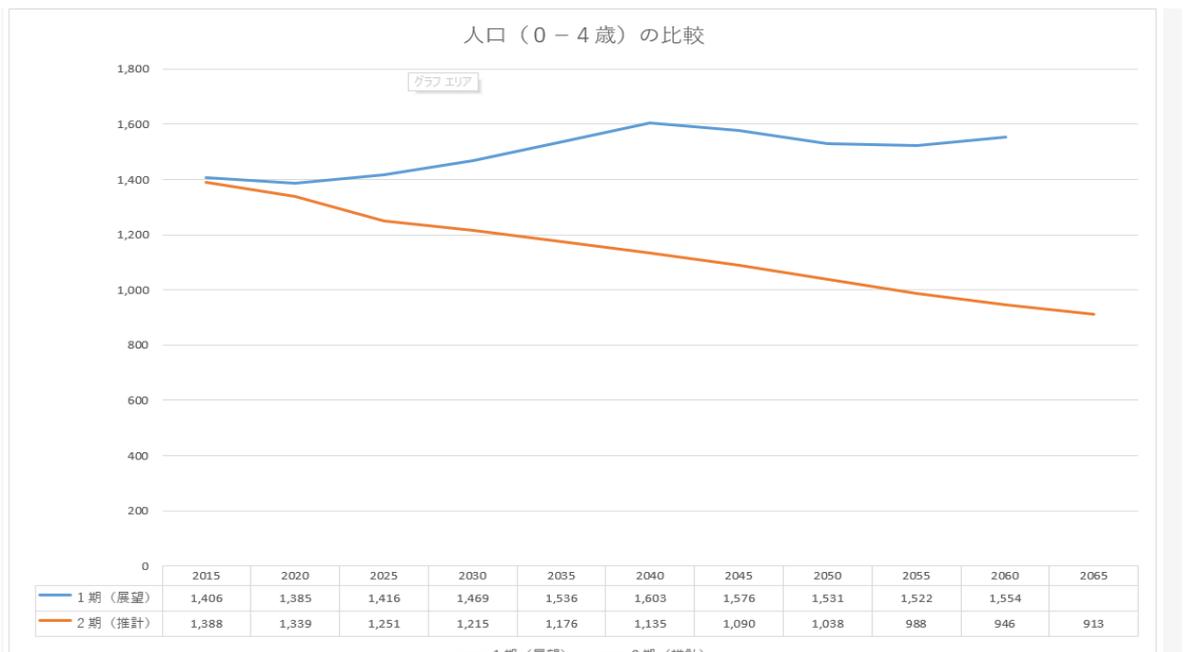
「その世代の出生率」である。

④ 総人口・年齢区分別人口の将来展望



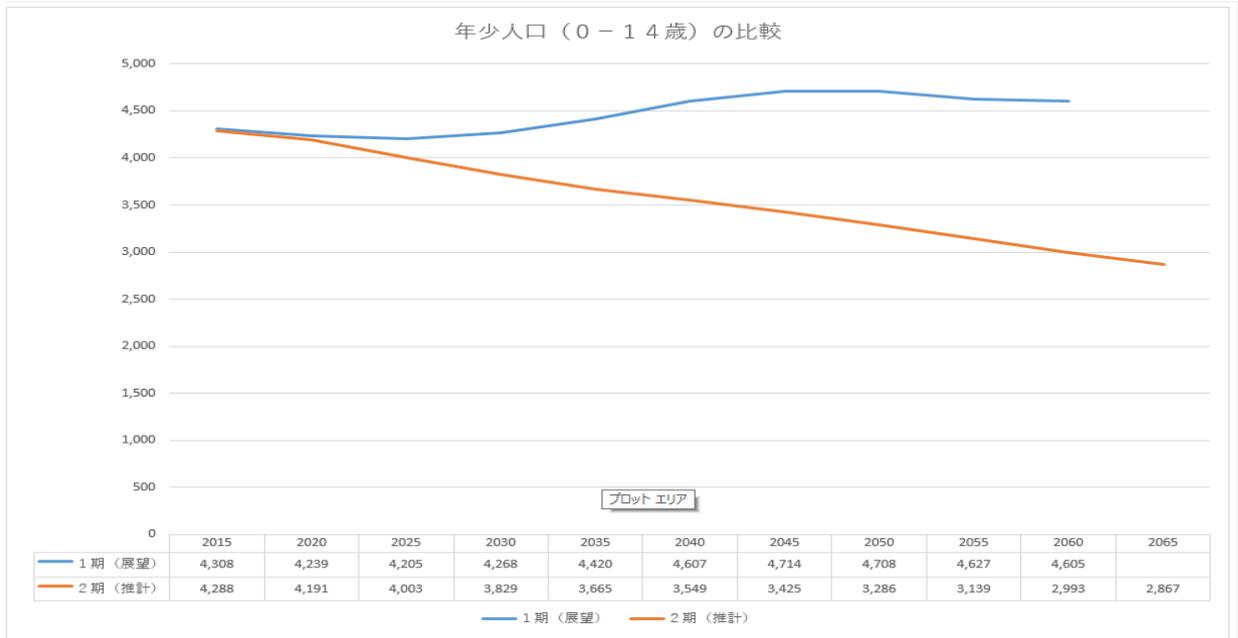
⑤ 人口の将来展望(0 - 4 歳)の比較

0歳から4歳人口は、社人研推計によれば、年々減少していき、2060(令和42)年に946人まで落ち込むと推計されています。しかし、将来の合計特殊出生率を大分県の目標水準に合わせて上昇を見込んだ施策展開を実施し、合計特殊出生率を、2015(平成27)年に1.63を、2030(令和12)年に2.00、2040(令和22)年に2.30とし、年少人口を2060(令和42)年に1,554人を確保する推計としています。



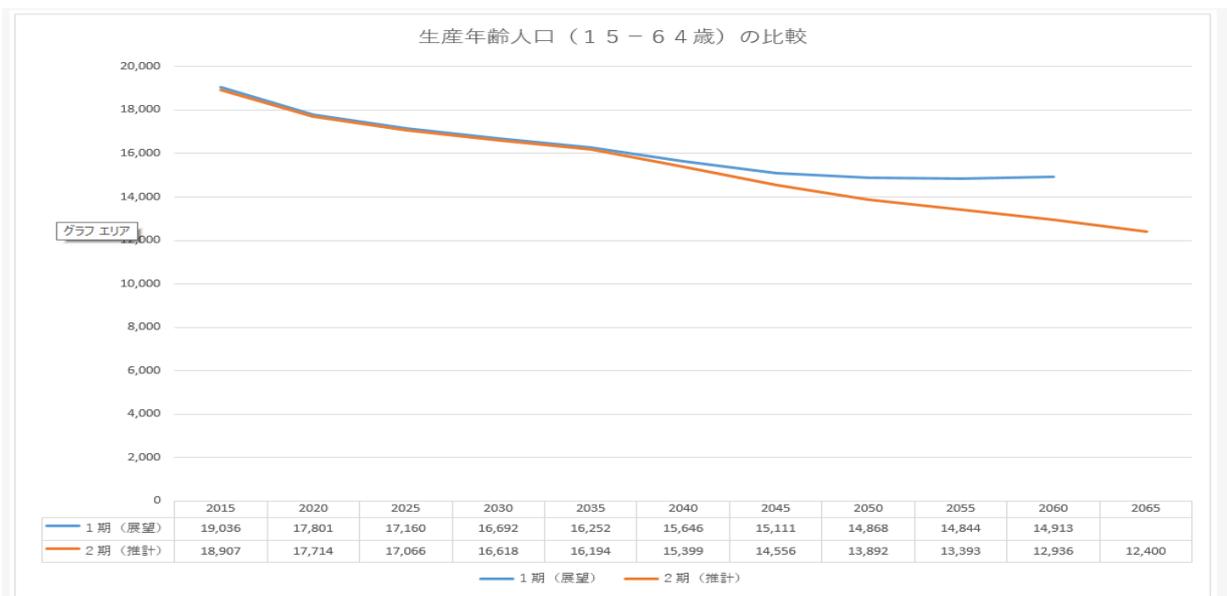
### ⑥ 人口の将来展望(0 - 14歳)の比較

年少人口は、2025(令和7)年までは、少し減少しますが、その後2045(令和27)年までは増加し、その後横ばい傾向となります。このことは、将来の合計特殊出生率を大分県の目標水準に合わせて上昇を見込んだ施策展開を実施し、合計特殊出生率を、2015(平成27)年に1.63を、2030(平成42)年に2.00、2040(平成52)年に2.30とし、年少人口を2060(平成72)年に4,605人を確保する推計としています。



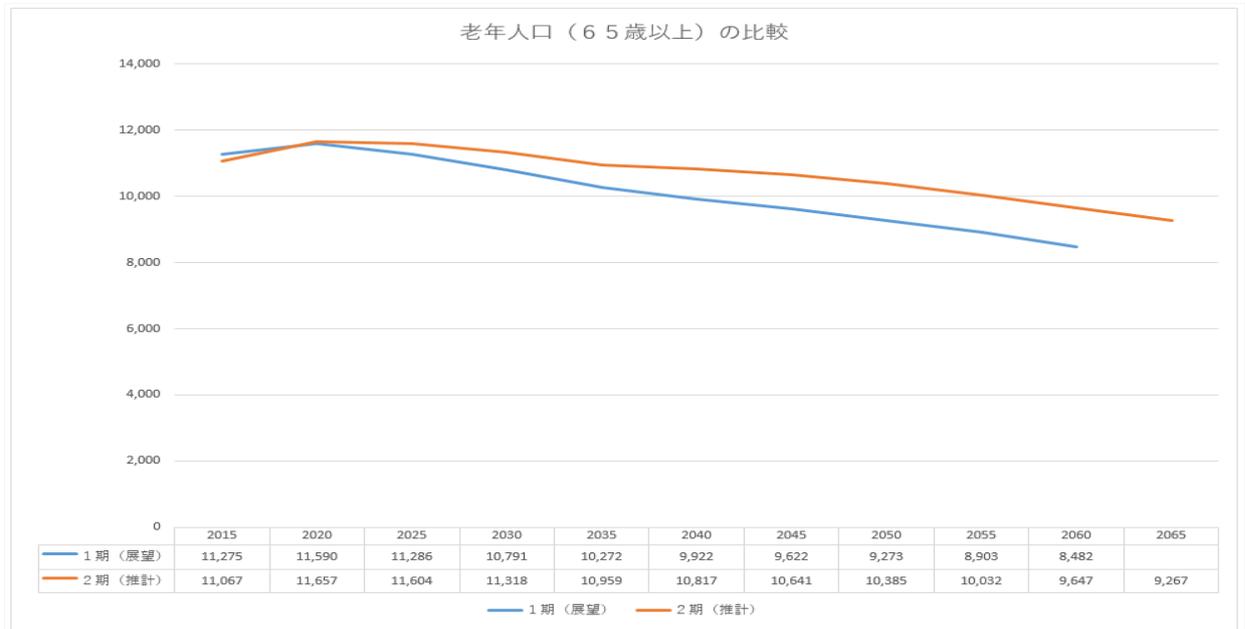
### ⑦ 人口の将来展望(15 - 64歳)の比較

生産年齢人口は、2050(令和32)年までは減少しますが、その後、2055(令和37)年からは、微増傾向に転じることが推測されます。しかし、独自推計のパターン3移動ゼロの政策を行った場合でも、2060(令和42)年14,620人と推測され、総人口28,000人を確保する観点から、さらに健康寿命を延ばす政策を展開して、生産年齢人口を2060(令和42)年に14,913人を確保する推計としています。



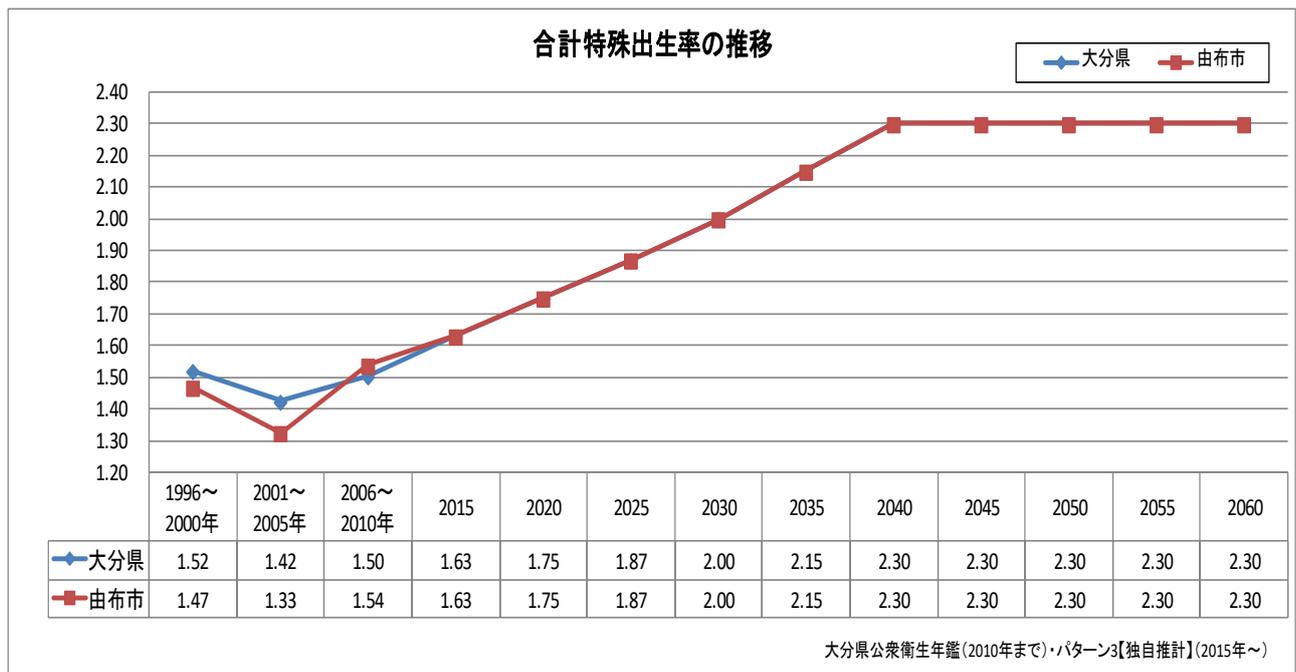
### ⑧ 人口の将来展望 老年人口(65歳以上)の比較

老年人口は、2020(令和2)年までは増加しますが、その後減少することが推測されます。しかし、独自推計のパターン3移動ゼロの政策を行った場合でも、社人研推計より減少することが推測されるため、さらに健康寿命を延ばす政策を展開して、老年人口を2060(令和42)年に8,482人を確保する推計としています。



### ⑨ 人口の将来展望

将来の合計特殊出生率を大分県の目標水準に合わせて上昇を見込んだ施策展開を実施し、2015(平成27)年1.63を、2030(令和12)年に2.00、2040(令和22)年に2.30とする推移のグラフとなっています。



⑩ 由布市人口の将来展望（第1期計画継続）

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口数	34,702	34,619	33,630	32,651	31,751	30,944	30,175	29,447	28,849	28,374	28,000
0～4歳	1,449	1,406	1,385	1,416	1,469	1,536	1,603	1,576	1,531	1,522	1,554
5～9歳	1,454	1,448	1,406	1,384	1,415	1,469	1,536	1,602	1,575	1,530	1,521
10～14歳	1,601	1,454	1,448	1,405	1,384	1,415	1,468	1,536	1,602	1,575	1,530
15～19歳	1,508	1,600	1,453	1,447	1,404	1,383	1,414	1,468	1,535	1,601	1,574
20～24歳	1,630	1,506	1,597	1,451	1,445	1,403	1,381	1,413	1,466	1,533	1,599
25～29歳	1,782	1,626	1,502	1,594	1,448	1,442	1,400	1,379	1,410	1,463	1,530
30～34歳	2,010	1,778	1,622	1,499	1,591	1,445	1,439	1,397	1,376	1,407	1,460
35～39歳	2,018	2,003	1,772	1,618	1,495	1,586	1,441	1,435	1,393	1,372	1,403
40～44歳	1,799	2,082	2,067	1,828	1,670	1,544	1,640	1,491	1,486	1,445	1,424
45～49歳	1,844	1,853	2,068	2,053	1,819	1,662	1,536	1,632	1,484	1,479	1,437
50～54歳	2,037	1,892	1,834	2,047	2,035	1,803	1,649	1,524	1,619	1,472	1,467
55～59歳	2,591	2,076	1,861	1,806	2,018	2,007	1,780	1,627	1,504	1,598	1,453
60～64歳	2,913	2,620	2,025	1,817	1,767	1,977	1,966	1,745	1,595	1,474	1,566
65～69歳	2,184	2,916	2,533	1,961	1,763	1,717	1,922	1,911	1,698	1,552	1,432
70～74歳	2,213	2,149	2,769	2,414	1,872	1,686	1,647	1,843	1,832	1,629	1,487
75～79歳	2,164	2,102	1,979	2,561	2,242	1,744	1,575	1,541	1,722	1,706	1,524
80～84歳	1,766	1,905	1,810	1,720	2,236	1,975	1,542	1,393	1,365	1,524	1,509
85～89歳	1,099	1,358	1,430	1,389	1,338	1,757	1,571	1,223	1,104	1,087	1,210
90歳以上	640	845	1,069	1,241	1,340	1,393	1,665	1,711	1,552	1,405	1,320

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
(年少人口) 0～14歳	4,504	4,308	4,239	4,205	4,268	4,420	4,607	4,714	4,708	4,627	4,605
(生産年齢人口) 15～64歳	20,132	19,036	17,801	17,160	16,692	16,252	15,646	15,111	14,868	14,844	14,913
(老年人口) 65歳以上	10,066	11,275	11,590	11,286	10,791	10,272	9,922	9,622	9,273	8,903	8,482
(後期高齢人口) 75歳以上	5,669	6,210	6,288	6,911	7,156	6,869	6,353	5,868	5,743	5,722	5,563

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
年齢別割合(0～14歳：%)	12.98%	12.44%	12.60%	12.88%	13.44%	14.28%	15.27%	16.01%	16.32%	16.31%	16.45%
年齢別割合(15～64歳：%)	58.01%	54.99%	52.93%	52.56%	52.57%	52.52%	51.85%	51.32%	51.54%	52.32%	53.26%
年齢別割合(65歳以上：%)	29.01%	32.57%	34.46%	34.57%	33.99%	33.20%	32.88%	32.68%	32.14%	31.38%	30.29%
年齢別割合(75歳以上：%)	16.34%	17.94%	18.70%	21.17%	22.54%	22.20%	21.05%	19.93%	19.91%	20.17%	19.87%

由布市 まち・ひと・しごと創生

Yufu - city ・ ・ 由布市人口ビジョン



編集：大分県由布市 総合政策課